

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「葛飾区障害者施策推進計画」を策定するにあたり、区内在住の障害者の日常生活や保健福祉サービスなどに関する要望・意見を把握し、区における総合的、効果的な障害者施策を構築するための基礎資料を得ることを目的として実施したものである。

2. 調査の方法

(1) 調査対象者及び対象者数

区内に住所がある、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳又は自立支援医療受給者証（精神通院）の所持者、特定医療費（指定難病）受給者証の所持者で、区が把握している障害者から無作為に抽出し、対象とした。

障害の種類	対象	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障害者	身体障害者手帳所持者	1,400 人	899	64.2%
知的障害者	愛の手帳所持者	350 人	220	62.9%
精神障害者	精神障害者保健福祉手帳又は自立支援医療受給者証(精神通院)の所持者	1,000 人	542	54.2%
難病患者	特定医療費(指定難病)受給者証の所持者	300 人	186	62.0%

(2) 調査期間

令和4年8月1日（月）～8月23日（火）

(3) 調査手法

郵送配付・郵送回収

3. 報告書を見る際の留意点

身体障害者の障害の種類は、主な障害により次のとおり分類した。

身体障害者の障害の種類	問7:手帳に記載されている障害名で選択した項目
①視覚障害	視覚障害
②聴覚・平衡機能障害	聴覚障害、平衡機能障害
③言語障害	音声・言語・そしゃく機能障害
④肢体不自由	肢体不自由
⑤内部障害	内部障害

○百分率について

百分率（％）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100％にならない場合がある。

○図表の単位について

本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「％」であらわしている。

○単純集計及び分析について

質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を百分率（％）の大きなものから小さなものへと並びかえた「ランキング集計」を行っている場合がある。

○クロス集計及び分析について

各調査の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、障害の種類別等を分析の柱とするクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

クロス集計表においては分析の柱となる項目の「無回答」の掲載を省略している。そのため、分析軸（タテ軸）の回答者数の合計値と「全体」の数値は一致しない。

また、分析の柱である障害の種類別は複数回答項目である。

4. 標本誤差

本調査は、対象となる母集団の中から、無作為に選ばれた一部の人（標本）について調査を行う「標本調査」である。標本調査では、標本から母集団における数値を推定する際に誤差が生じる可能性が高い。

調査で生じた標本誤差（b）はおおよそ下表のとおりである。標本誤差（b）の値は、母集団数（N）、比率算出の基数（n）、及び回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

標本誤差【身体】

回答 比率 基数	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
899	±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
600	±2.3%	±3.1%	±3.6%	±3.8%	±3.9%
400	±2.9%	±3.9%	±4.4%	±4.7%	±4.8%
200	±4.1%	±5.5%	±6.3%	±6.7%	±6.9%
100	±5.9%	±7.8%	±8.9%	±9.6%	±9.8%

標本誤差【知的】

回答 比率 基数	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
220	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.4%
150	±4.7%	±6.2%	±7.1%	±7.6%	±7.8%
100	±5.8%	±7.7%	±8.8%	±9.4%	±9.6%
50	±8.2%	±11.0%	±12.6%	±13.5%	±13.7%

標本誤差【精神】

回答 比率 基数	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
542	±2.5%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
400	±2.9%	±3.8%	±4.4%	±4.7%	±4.8%
300	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
200	±4.1%	±5.5%	±6.3%	±6.7%	±6.9%
100	±5.8%	±7.8%	±8.9%	±9.6%	±9.7%

標本誤差【難病】

回答 比率 基数	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
186	±4.2%	±5.6%	±6.4%	±6.8%	±7.0%
150	±4.7%	±6.3%	±7.2%	±7.7%	±7.8%
100	±5.8%	±7.7%	±8.8%	±9.5%	±9.7%
50	±8.3%	±11.0%	±12.6%	±13.5%	±13.8%

第2章 調査の分析

I 身体障害者調査

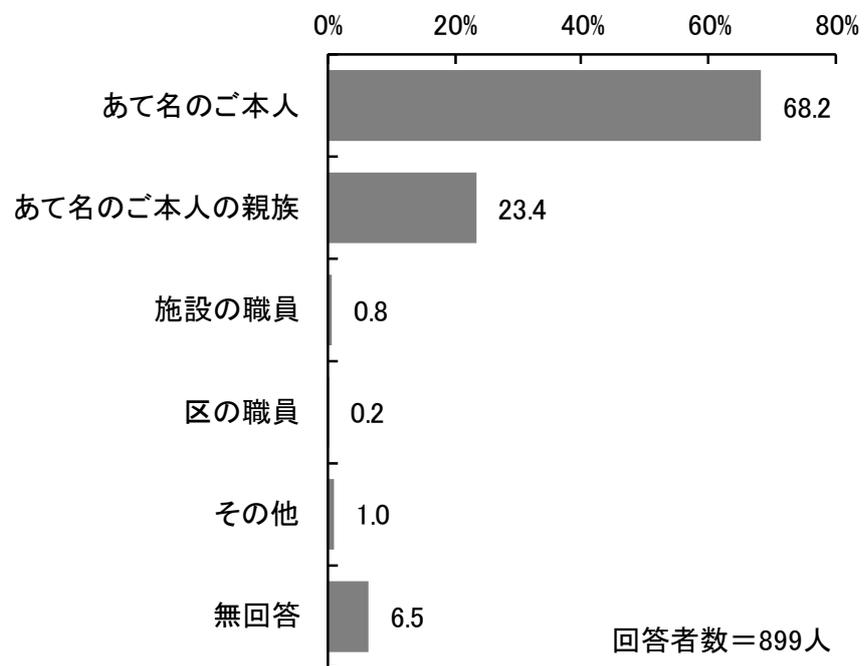
1. 調査票記入者について

(1) 調査票記入者

問1 この調査票に記入される方はどなたですか。(○は1つだけ)

調査票記入者は、「あて名のご本人」が68.2%で最も高く、次いで「あて名のご本人の親族」23.4%となっている。

図表 I-1 調査票記入者



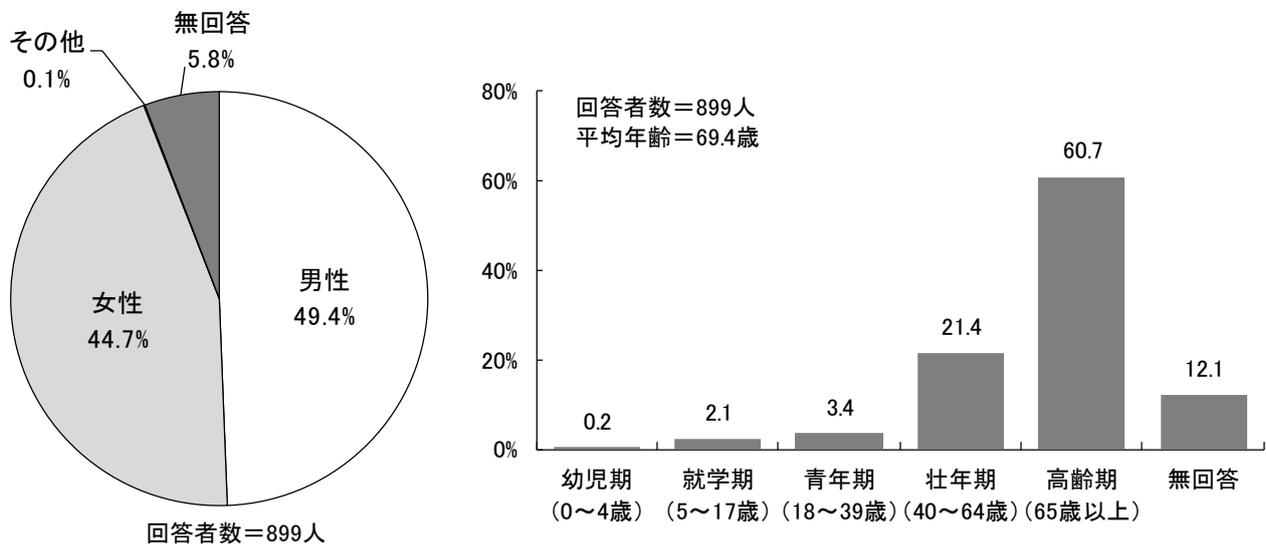
2. 調査対象者について

(1) ご本人の性別と年齢

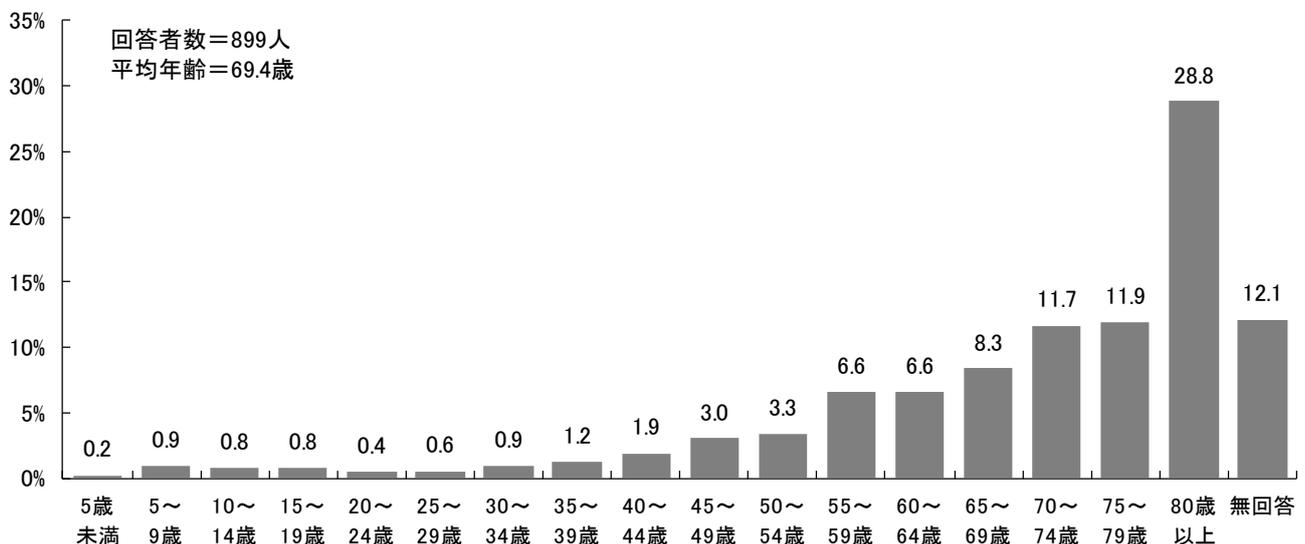
問2 あなたの性別と年齢をお答えください。(令和4年8月1日現在)

性別は、「男性」が49.4%、「女性」が44.7%、「その他」0.1%となっている。
年齢は、「高齢期(65歳以上)」が60.7%で最も高く、次いで「壮年期(40～64歳)」21.4%、「青年期(18～39歳)」3.4%、「就学期(5～17歳)」2.1%となっている。
平均年齢は、69.4歳である。

図表 I-2 ご本人の性別と年齢



図表 I-3 ご本人の年齢 (5歳きざみ)

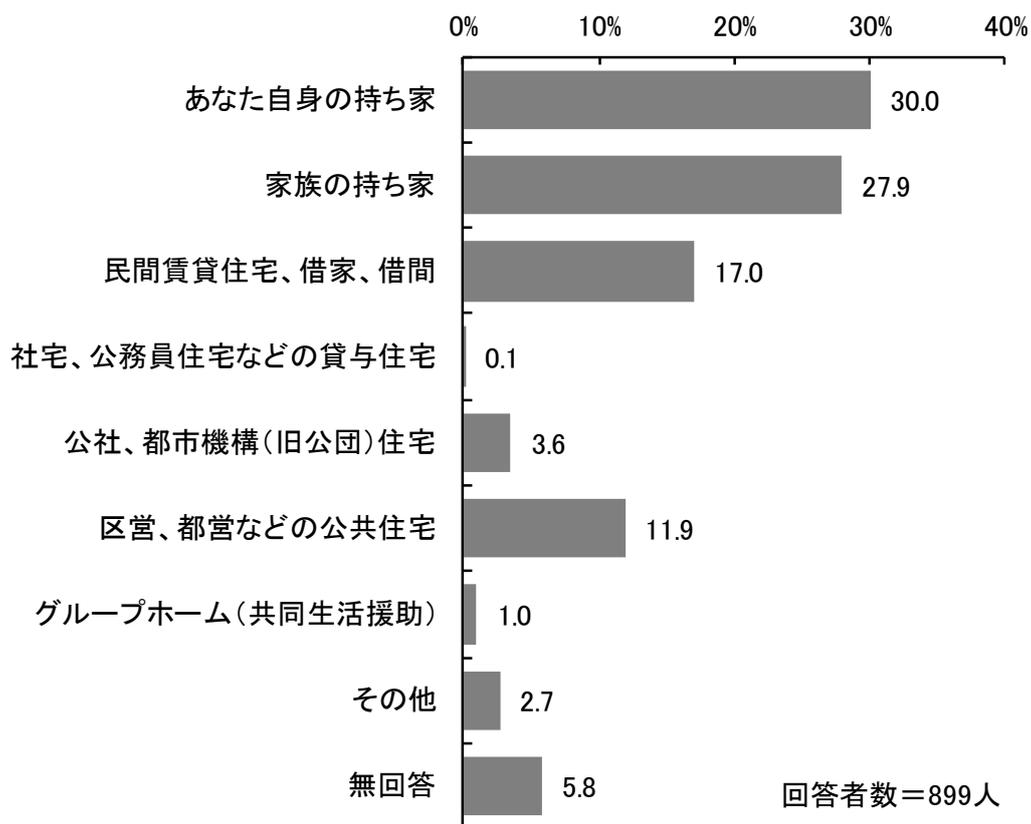


(2) 住居形態

問3 あなたのお住まいの種類は次のどれですか。(〇は1つだけ)

住居形態は、「あなた自身の持ち家」が30.0%で最も高く、次いで「家族の持ち家」27.9%、「民間賃貸住宅、借家、借間」17.0%、「区営、都営などの公共住宅」11.9%となっている。

図表 I-4 住居形態



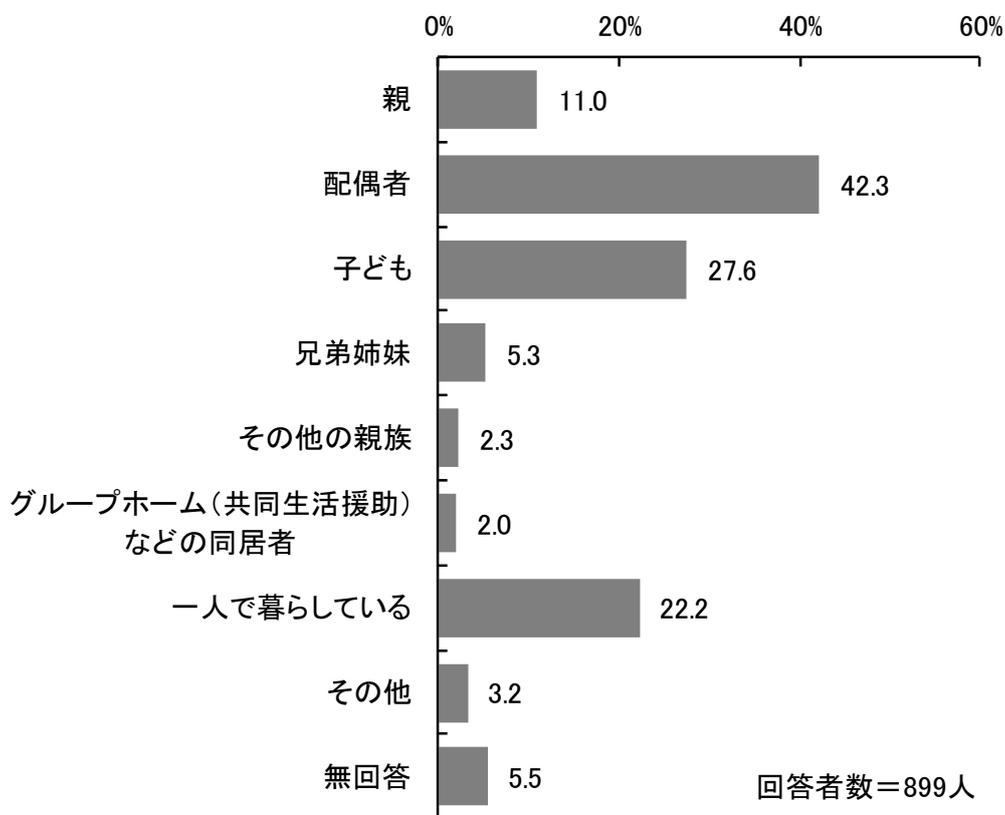
(3) 同居家族

問4 あなたは現在どなたと一緒に暮らしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

同居家族は、『なんらかの家族・親族と暮らしている方』が、67.1%となっている。そのうち、最も多い同居家族は「配偶者」、次いで「子ども」である。

一方、「一人で暮らしている」は22.2%である。

図表 I-5 同居家族



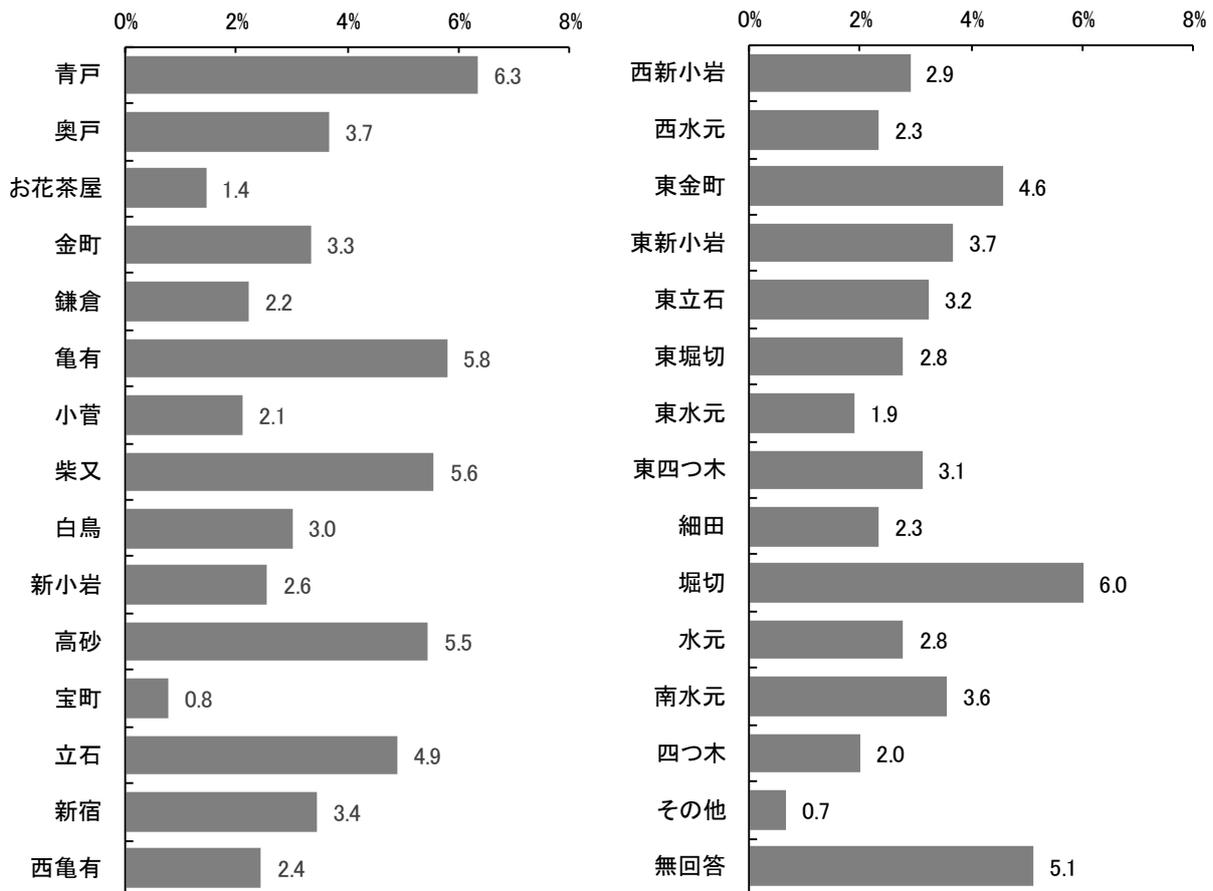
※『なんらかの家族・親族と暮らしている方』=100-（「グループホームなどの同居人」+「一人で暮らしている」+「その他」+無回答）

(4) 居住地域

問5 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(〇は1つだけ)

居住地域は、「青戸」6.3%、「堀切」6.0%がやや高くなっている。

図表 I-6 居住地域



回答者数=899人

3. 援護者（支援者）について

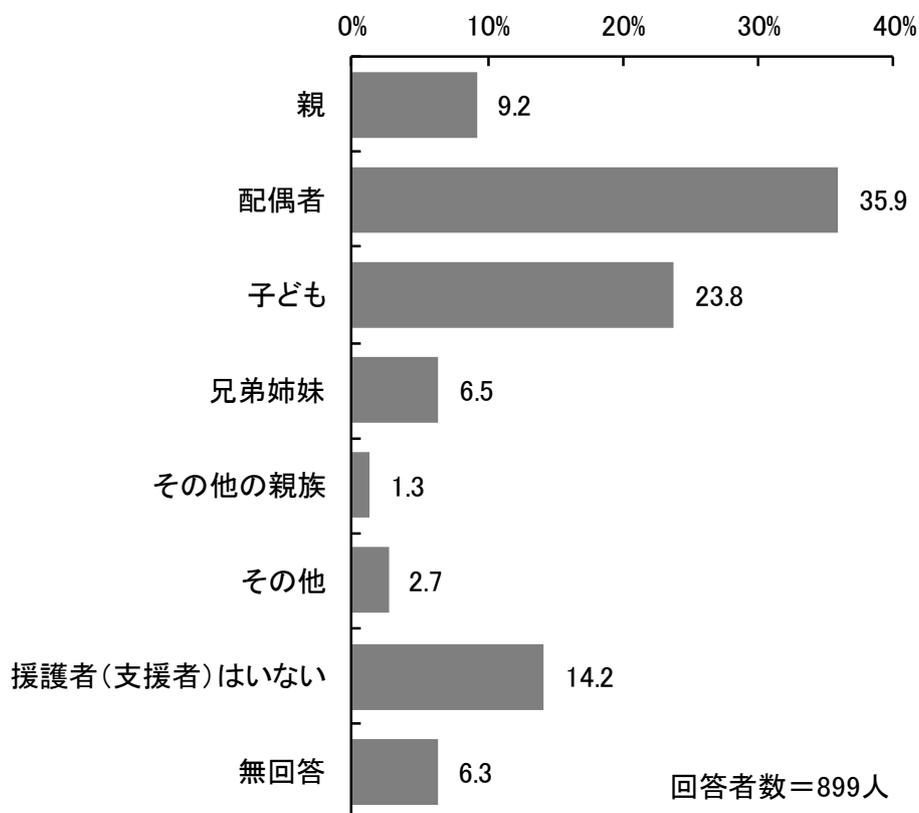
（1）主な援護者（支援者）

問6 あなたの主な援護者（支援者）はどなたですか。（○は1つだけ）

主な援護者（支援者）は、「配偶者」が35.9%で最も高く、次いで「子ども」23.8%となっている。

一方、「援護者（支援者）はいない」は14.2%である。

図表 I-7 主な援護者（支援者）



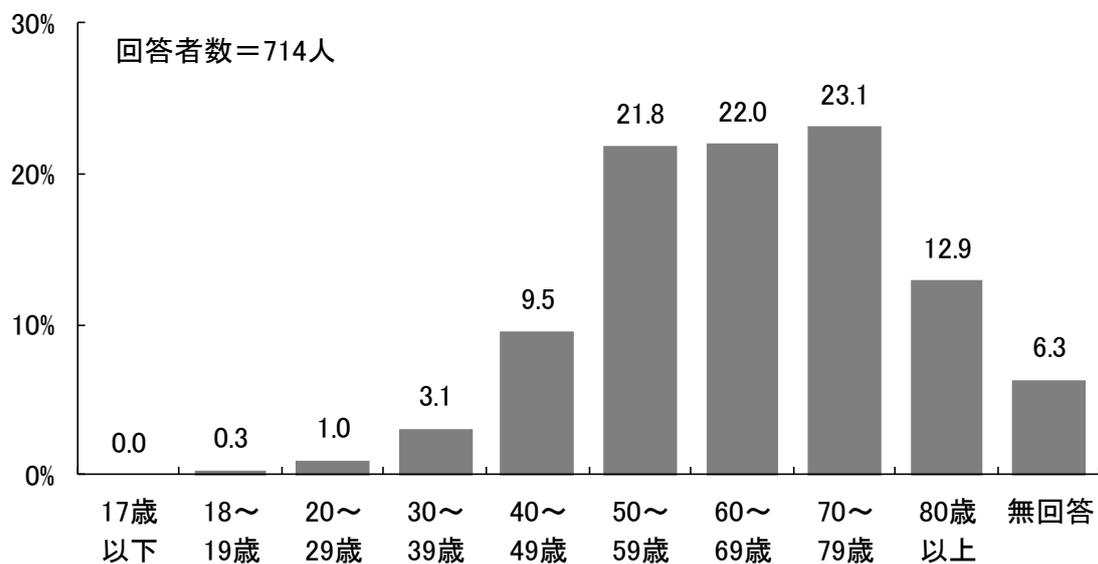
(2) 主な援護者（支援者）の年齢

★ 問6-①は、問6で「1.親」「2.配偶者」「3.子ども」「4.兄弟姉妹」「5.その他の親族」「6.その他」のいずれかに○をした方

問6-① 主な援護者（支援者）の年齢は、おいくつぐらいですか。（○は1つだけ）

主な援護者がいると回答した方の主な援護者（支援者）の年齢は、「70～79歳」が23.1%で最も高く、次いで「60～69歳」22.0%、「50～59歳」21.8%となっている。

図表 I-8 主な援護者（支援者）の年齢



4. 障害の状況について

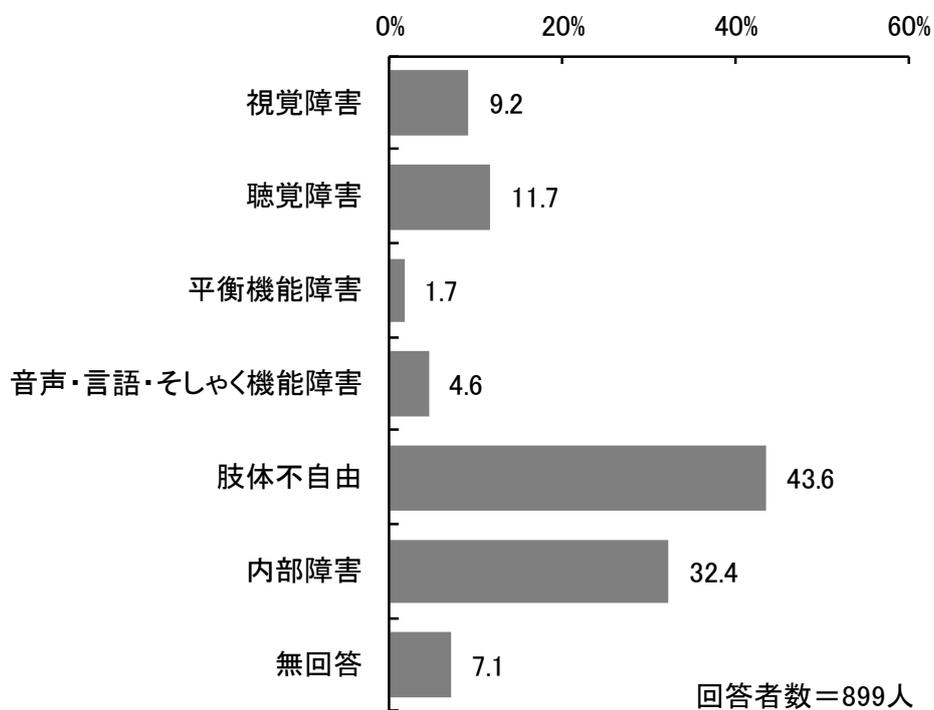
(1) 障害の種類

問7 あなたの身体障害者手帳に記載されている障害名は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

障害の種類は、「肢体不自由」が43.6%となっている。次いで「内部障害」32.4%、「聴覚障害」11.7%となっている。

図表 I-9 障害の種類



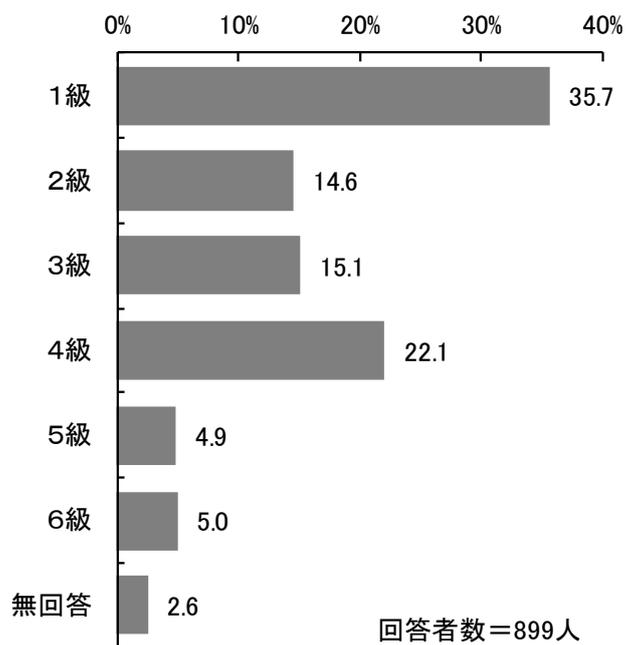
(2) 障害の程度

問8 あなたの身体障害者手帳に記載されている障害の程度をお答えください。

(○は1つだけ)

障害の程度は、「1級」が35.7%で最も高く、次いで「4級」22.1%、「3級」15.1%、「2級」14.6%となっている。

図表 I-10 障害の程度



障害の種類別にみると、視覚障害では「1級」「2級」がともに33.7%、聴覚・平衡機能障害は「2級」29.3%、「言語障害」は「1級」39.0%、肢体不自由は「4級」26.5%、「1級」23.5%、内部障害は「1級」67.7%と割合が高くなっている。

図表 I-11 障害の程度（障害の種類別）

		回答者数 人	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
全体		899	35.7	14.6	15.1	22.1	4.9	5.0	2.6
障害の種類別	視覚障害	83	33.7	33.7	8.4	10.8	9.6	2.4	1.2
	聴覚・平衡機能障害	116	14.7	29.3	12.1	15.5	0.9	25.9	1.7
	言語障害	41	39.0	19.5	22.0	17.1	2.4	0.0	0.0
	肢体不自由	392	23.5	18.1	19.9	26.5	7.9	3.1	1.0
	内部障害	291	67.7	3.4	8.9	17.5	1.0	0.7	0.7

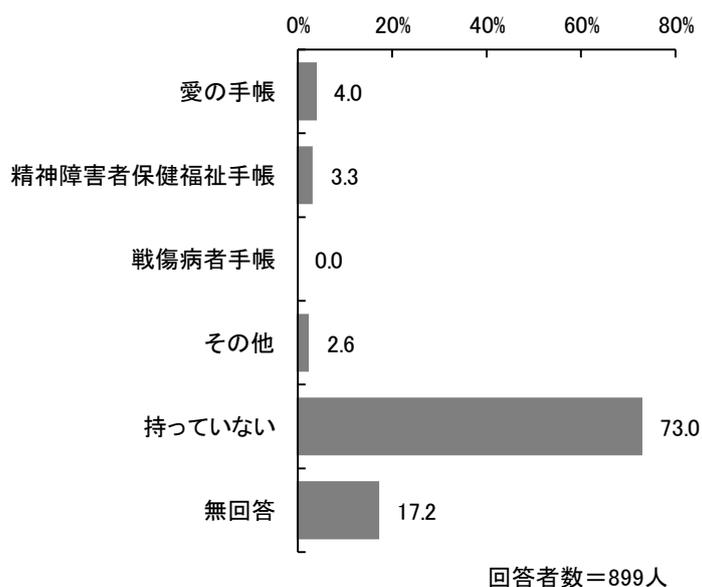
単位：%

(3) 身体障害者手帳以外の手帳の所持状況

問9 あなたは身体障害者手帳以外の手帳をお持ちですか。また、障害の程度を()の中にお書きください。(○はあてはまるものすべて)

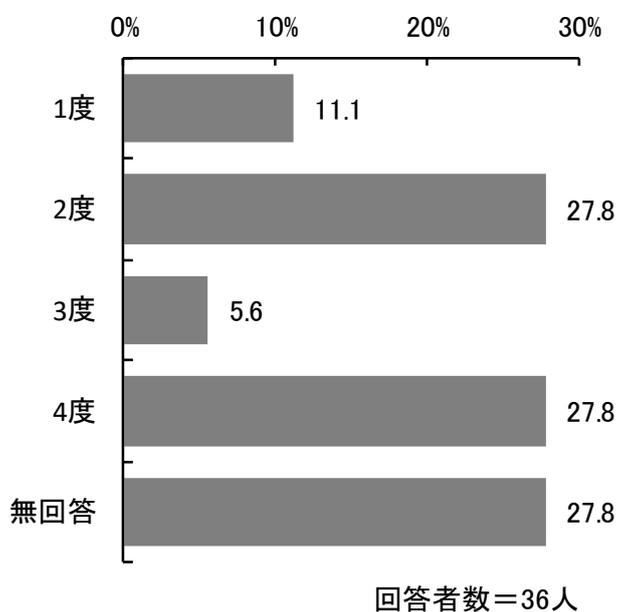
身体障害者手帳以外の手帳の所持状況は、「持っていない」が73.0%と約7割を占めている。次いで「愛の手帳」4.0%、「精神障害者保健福祉手帳」3.3%となっている。

図表 I-1 2 身体障害者手帳以外の手帳の所持状況



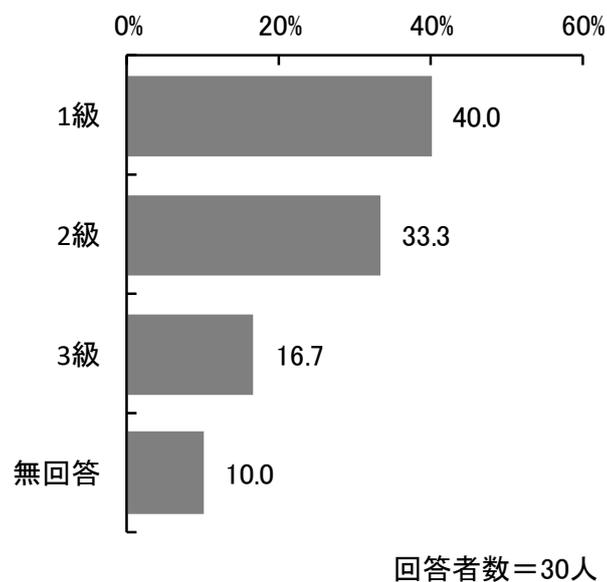
身体障害者で愛の手帳を所持している方の愛の手帳の程度は、「2度」「4度」がともに27.8%で最も高く、次いで「1度」11.1%、「3度」5.6%となっている。

図表 I-1 3 愛の手帳の程度



身体障害者で精神障害者保健福祉手帳を所持している方の精神障害者保健福祉手帳の程度は、「1級」が40.0%、「2級」33.3%、「3級」16.7%となっている。

図表 I-14 精神障害者保健福祉手帳の程度

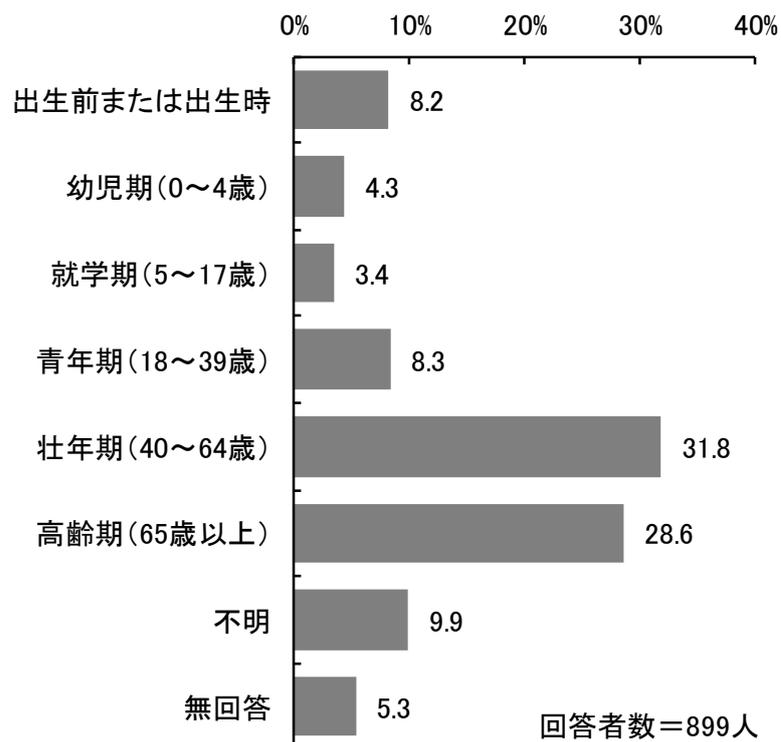


(4) 障害がある状態になった時期

問 10 あなたが障害がある状態になったのは、いつですか。(○は1つだけ)

障害がある状態になった時期は、「壮年期(40～64歳)」が31.8%で最も高く、次いで「高齢期(65歳以上)」28.6%となっている。

図表 I-15 障害がある状態になった時期



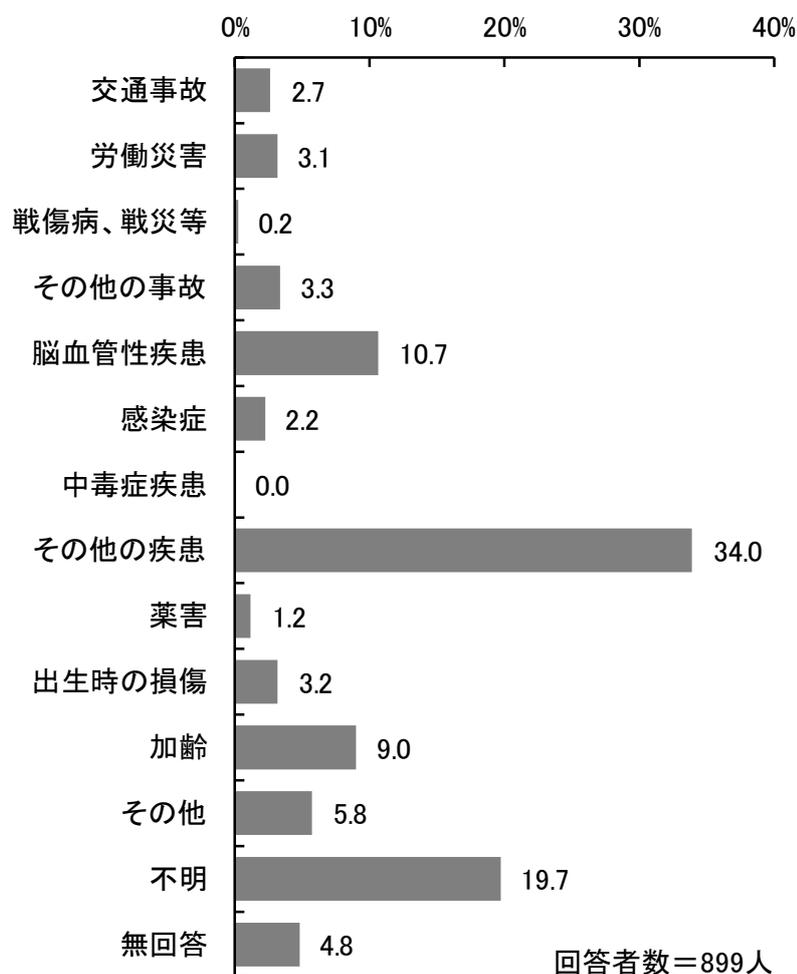
(5) 障害の原因

問 11 主な障害についてお聞きします。その障害の原因は何ですか。(○は1つだけ)

障害の原因は、「その他の疾患」が 34.0%と最も高く、次いで「脳血管性疾患」が 10.7%、「加齢」9.0%となっている。

一方、「不明」は 19.7%となっている。

図表 I-16 障害の原因



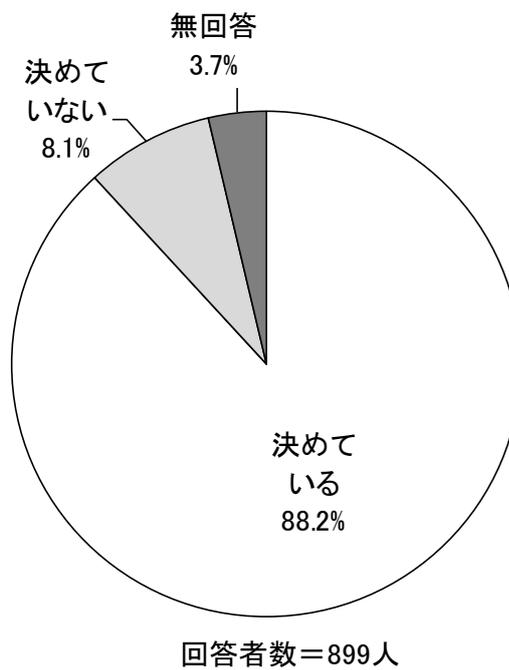
5. 健康管理について

(1) かかりつけ医療機関の有無

問 12 かかりつけの医療機関を決めていますか。(〇は1つだけ)

かかりつけ医療機関の有無は、「決めている」が88.2%、「決めていない」が8.1%となっている。

図表 I-17 かかりつけ医療機関の有無

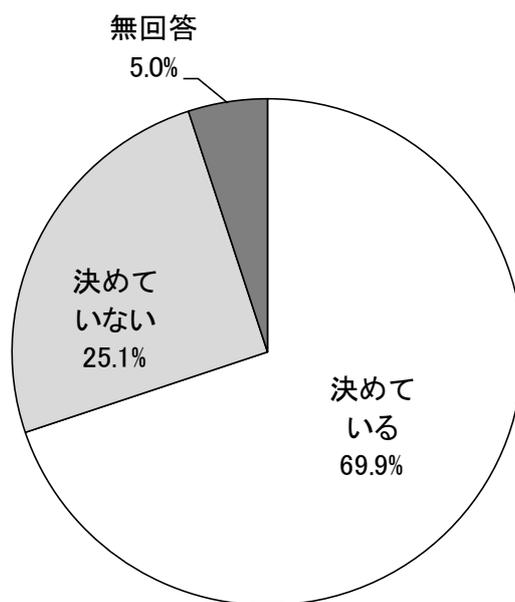


(2) かかりつけの歯科医療機関の有無

問 13 かかりつけの歯科医療機関を決めていますか。(〇は1つだけ)

かかりつけ歯科医療機関の有無は、「決めている」が 69.9%、「決めていない」が 25.1% となっている。

図表 I-18 かかりつけ歯科医療機関の有無



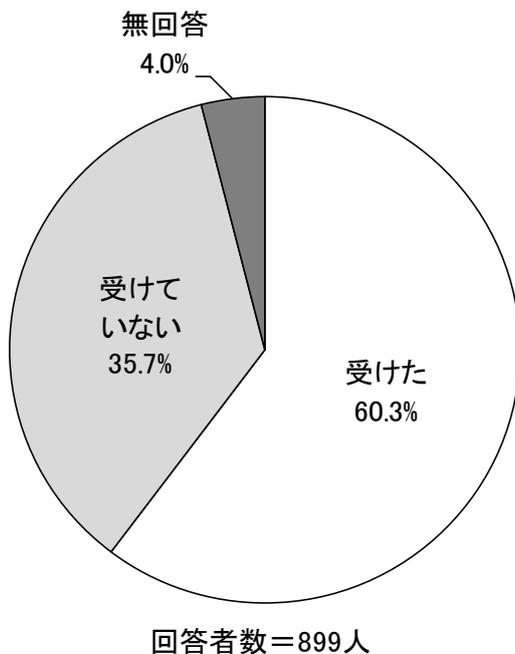
回答者数=899人

(3) 健康診断の受診状況

問 14 過去1年間に生活習慣病などの健康診断を受けましたか。(〇は1つだけ)

健康診断の受診状況は、「受けた」が60.3%、「受けていない」が35.7%となっている。

図表 I-19 健康診断の受診状況



年代別にみると、「受けた」割合は青年期（18～39歳）で87.1%と、他の年代より高くなっている。

図表 I-20 健康診断の受診状況（年代別）

		回答者数 人	受けた	受けていない	無回答
全体		899	60.3	35.7	4.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	100.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	36.8	63.2	0.0
	青年期（18～39歳）	31	87.1	12.9	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	57.8	40.1	2.1
	高齢期（65歳以上）	546	61.9	34.4	3.7

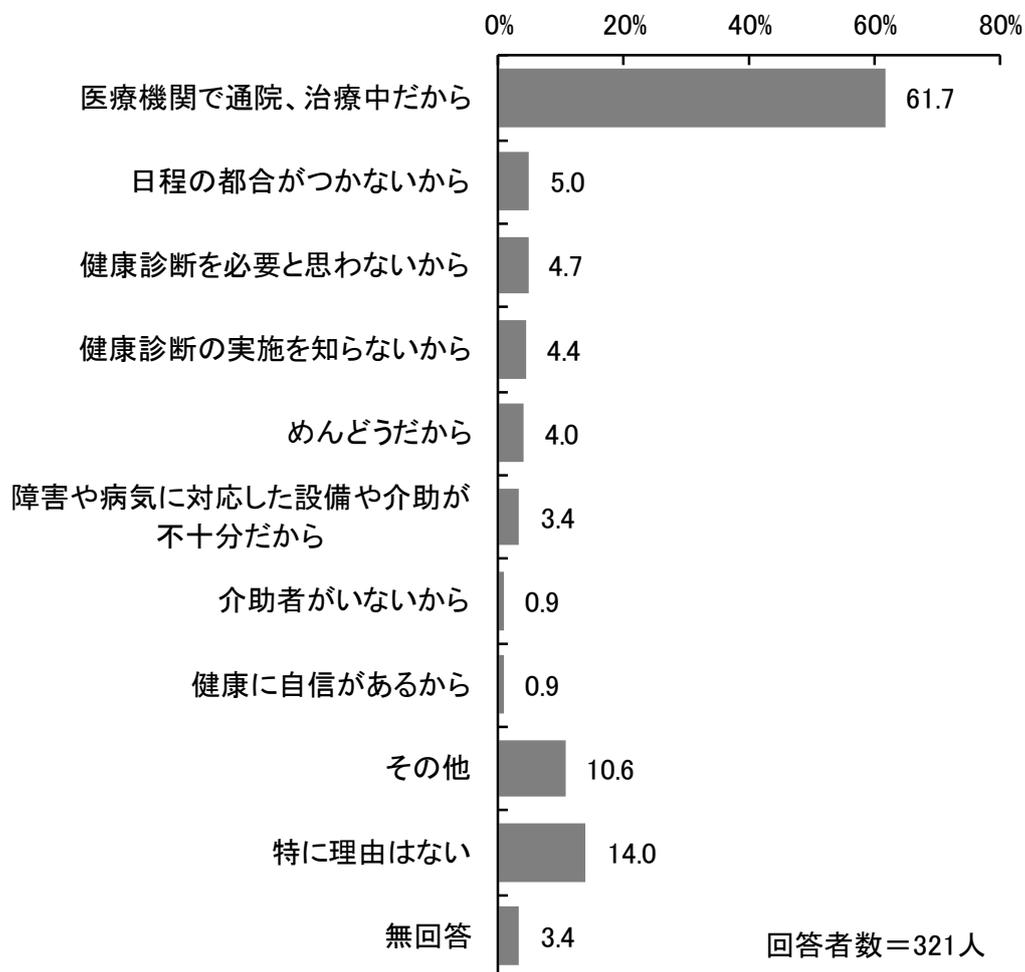
単位：%

(4) 健康診断を受けていない理由

★問 14-①は、問 14 で「2.受けていない」に○をした方
問 14-① 受けていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

健康診断を「受けていない」と回答した方の健康診断を受けていない理由は、「医療機関で通院、治療中だから」が 61.7%で最も高く、次いで「日程の都合がつかないから」5.0%、「健康診断を必要と思わないから」4.7%となっている。
一方、「特に理由はない」は 14.0%である。

図表 I-2 1 健康診断を受けていない理由



年代別にみると、就学期（5～17歳）、壮年期（40～64歳）、高齢期（65歳以上）では「医療機関で通院、治療中だから」が第1位となっている。

図表 I-22 健康診断を受けていない理由（年代別）

		回答者数 人	医療機関で通院 治療中 だから	日程の都合がつかないから	健康診断を必要と思わな いから	健康診断の実施を知らな いから	めんどろだから	障害や病気に対応した設 備や介助が不十分だから	介助者がいないから	健康に自信があるから	その他	特に理由はない	無回答
全 体		321	61.7	5.0	4.7	4.4	4.0	3.4	0.9	0.9	10.6	14.0	3.4
年 代 別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	12	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	25.0	0.0
	青年期（18～39歳）	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0
	壮年期（40～64歳）	77	62.3	6.5	5.2	2.6	7.8	5.2	1.3	2.6	13.0	13.0	1.3
	高齢期（65歳以上）	188	64.4	4.8	4.8	2.7	3.2	2.7	0.5	0.0	9.0	12.8	4.8

単位：%

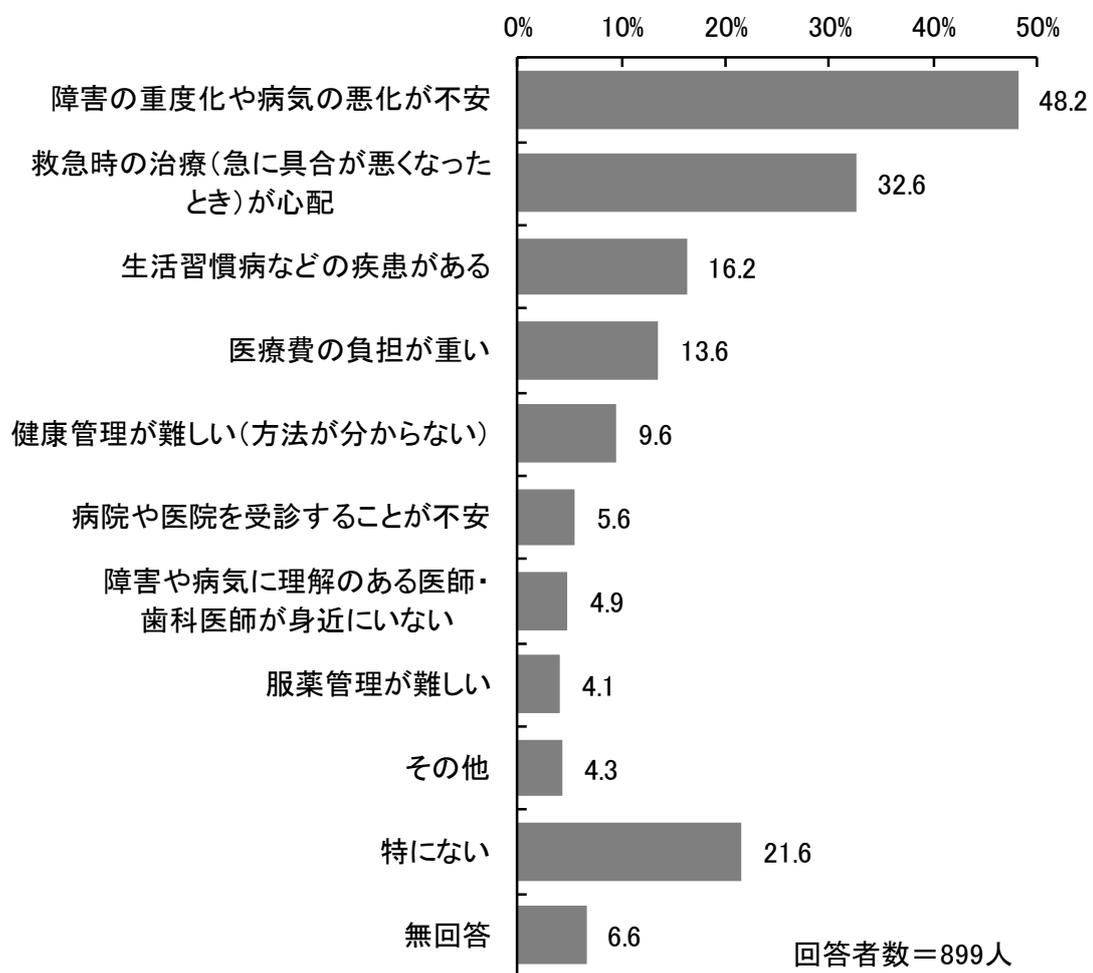
(5) 健康や医療についての不安や課題

問 15 ご自身の健康や医療について、どのような不安や課題がありますか。

(○はあてはまるものすべて)

健康や医療についての不安や課題は、「障害の重度化や病気の悪化が不安」が48.2%で最も高く、次いで「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」32.6%、「生活習慣病などの疾患がある」16.2%となっている。

図表 I-23 健康や医療についての不安や課題



障害の種類別にみると、「障害の重度化や病気の悪化が不安」はすべての障害種類において第1位、「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」が第2位となっている。特に視覚障害、肢体不自由、内部障害では半数以上となっている。

障害の程度別にみても、すべての障害程度で「障害の重度化や病気の悪化が不安」が第1位、「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」が第2位となっている。

図表 1-24 健康や医療についての不安や課題（障害の種類別/障害の程度別）

		回答者数人	障害の重度化や病気の悪化が不安	救急時の治療 急に具合が悪くなつたときが心配	生活習慣病などの疾患がある	医療費の負担が重い	健康管理が難しい 方法が分からない	病院や医院を受診することが不安	障害や病気に理解のある医師 歯科医師が身近にいない	服薬管理が難しい	その他	特になし	無回答
全体		899	48.2	32.6	16.2	13.6	9.6	5.6	4.9	4.1	4.3	21.6	6.6
障害の種類別	視覚障害	83	55.4	27.7	20.5	20.5	9.6	4.8	6.0	10.8	1.2	18.1	7.2
	聴覚・平衡機能障害	116	38.8	36.2	15.5	9.5	16.4	13.8	10.3	9.5	7.8	27.6	3.4
	言語障害	41	46.3	31.7	12.2	17.1	14.6	2.4	12.2	9.8	4.9	26.8	4.9
	肢体不自由	392	52.8	34.2	17.3	13.8	9.7	6.4	5.9	2.8	4.6	20.2	4.1
	内部障害	291	52.2	36.4	17.2	14.4	10.3	3.8	3.8	3.8	4.1	18.2	7.2
障害の程度別	1級	321	55.1	36.1	15.3	12.8	10.3	4.4	4.4	4.0	3.1	17.1	7.2
	2級	131	55.0	38.2	16.0	9.9	12.2	8.4	6.9	6.9	6.9	19.1	4.6
	3級	136	40.4	27.9	18.4	11.8	6.6	5.9	4.4	1.5	4.4	27.2	5.9
	4級	199	40.2	29.6	17.1	20.6	8.0	6.0	4.5	3.5	5.5	24.6	5.0
	5級	44	47.7	22.7	18.2	13.6	4.5	6.8	4.5	0.0	0.0	20.5	11.4
	6級	45	51.1	35.6	15.6	6.7	17.8	4.4	8.9	13.3	6.7	26.7	2.2

単位：％

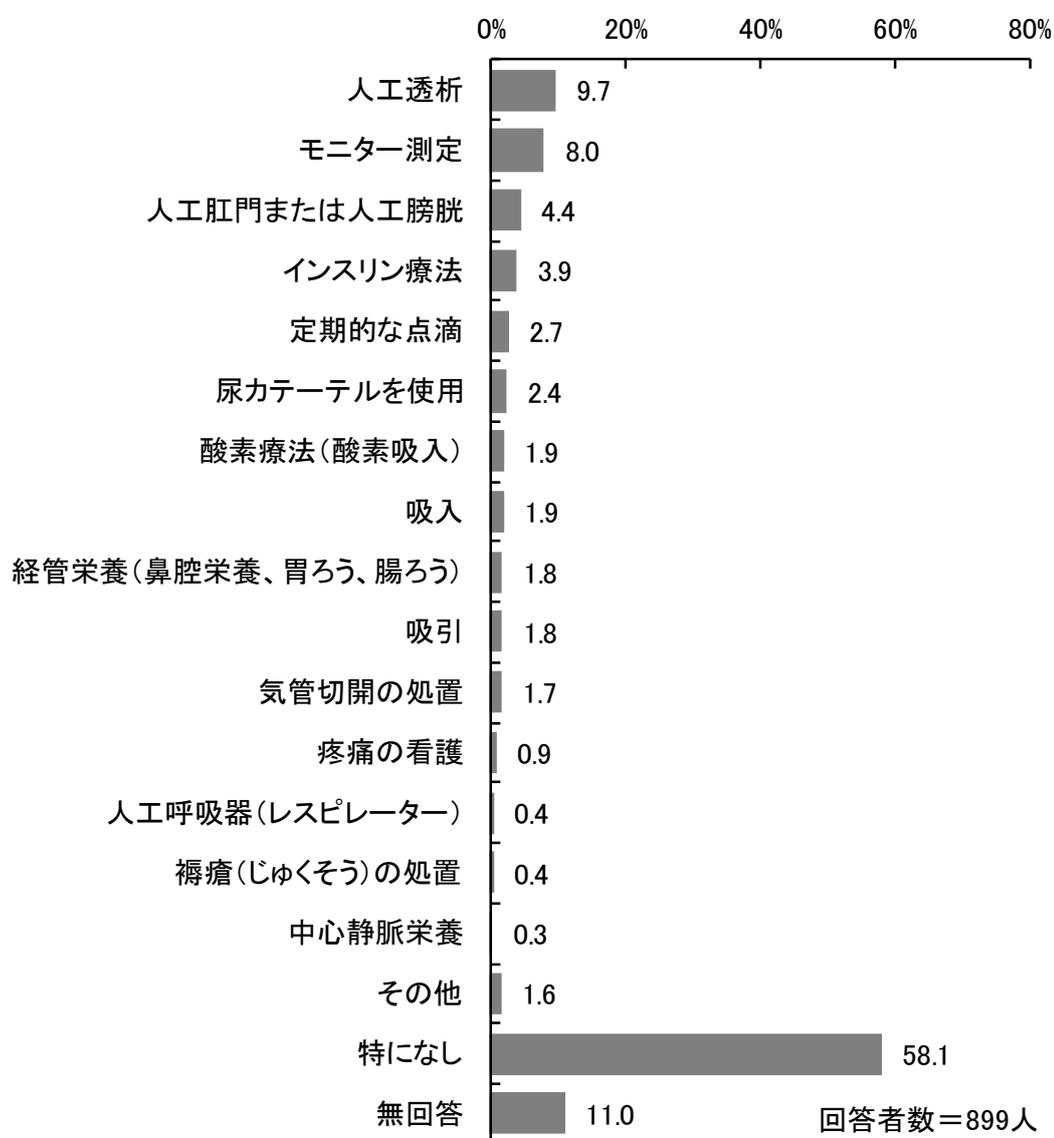
(6) 医療処置や医療的ケアの利用状況

問 16 あなたは、次の医療処置や医療的ケアを受けていますか。

(○はあてはまるものすべて)

医療処置や医療的ケアの利用状況は、『医療的ケアの利用が必要な方』が 30.9%、「特になし」が 58.1%となっている。利用している方では、「人工透析」が 9.7%で最も高く、次いで「モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度など）」8.0%となっている。

図表 I-25 医療処置や医療的ケアの利用状況



※『医療的ケアの利用が必要な方』=100-（「特になし」+無回答）

※モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度など）

※吸入（ネブライザー装置を用いて気道に薬物や水分を与えることにより、痰などの分泌物を出しやすくする）

(7) 医療処置や医療的ケアを受けながら生活していくうえで必要な支援

★問 16-①は、問 16で「1.」～「16.」のいずれかに○をした方

問 16-① 医療処置や医療的ケアを受けながら生活していくうえで、どのような支援が必要ですか。

以下は、必要な支援についてのご意見やご要望（総数 80 件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①医療費、その他経済的支援(16件)

- 医療費支援（派生する疾患で対象外の物が多い）。車いす、手すり等の住宅整備についての支援。
- 日常生活用具費の支給券は(高額のため)これからも続けてほしい。
- 時間の制約が多いので、仕事等を探す際苦労するので金銭面など支援してほしい。

②介護・介助等の支援(14件)

- 身体機能が低下しているので、その介護が必要。
- 病院で呼ばれてもわからないので、付き添ってくれる人がいれば安心。

③通院、送迎、移動等の支援(8件)

- 介護タクシーなどの移動手段。
- 電車やバスでは病院に行けないため、タクシー券を出してほしい。

④在宅医療ケアについて(5件)

- 定期的な訪問看護をいずれは受けたい。

⑤現在の支援を継続(5件)

- 考えられる支援は、ほとんど受けていますので、現制度が継続される事を望む。

⑥情報提供や相談の機会(2件)

- 治療についての相談窓口。
- 進行をわかりやすく説明いただき、ケアの仕方を教えてほしい。

⑦その他(30件)

- 訪問リハビリの支援。
- 通所の施設で看護師さんのお休みの日でも医療ケアを行ってほしい。
- 高齢者施設に入所し医療処置（人工透析）や介護をお願いしたい。
- やる気を起こさせる施策、心のケア。
- 急に具合が悪くなった時（心臓病、不整脈発作）、対応（相談や処置）をしていただきたい。
- 就業支援。寛解期や悪化期にどう対応してくれるか、まとめて知ることができれば、そこから選ぶことができ、せつかく面接しても無駄な時間にならずに済む。
- 学校生活（特に宿泊行事）のサポート、就学相談、理解のある医療機関。

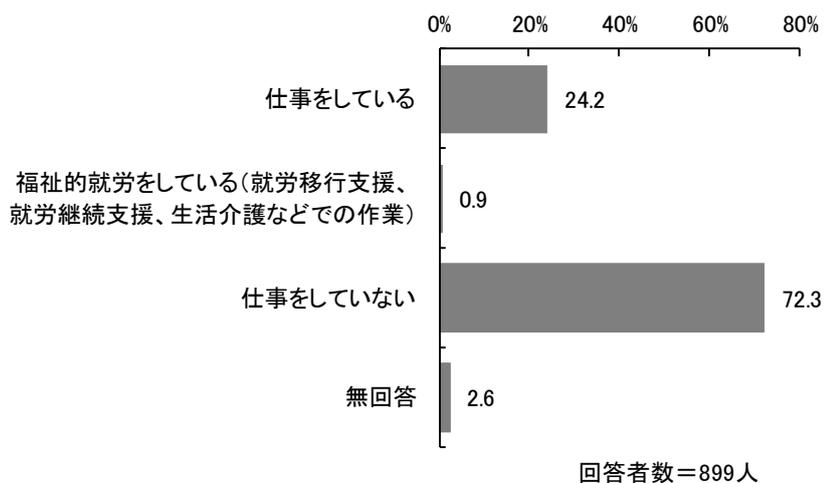
6. 就労状況について

(1) 就労状況

問 17 現在、収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つだけ)

就労状況は、「仕事をしている」が 24.2%となっている。一方、「仕事をしていない」は 72.3%である。

図表 I-26 就労状況



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「仕事をしていない」が第1位となっている。5級では「仕事をしている」36.4%と、他の障害程度より高くなっている。

図表 I-27 就労状況 (障害の程度別)

		回答者数 人	仕事をしている	福祉的就労をしている (就労移行支援 就労継続支 援 生活介護などでの作業)	仕事をしていない	無回答
全体		899	24.2	0.9	72.3	2.6
障害の 程度別	1級	321	22.7	0.3	74.1	2.8
	2級	131	23.7	3.1	71.0	2.3
	3級	136	24.3	0.7	73.5	1.5
	4級	199	26.6	0.0	70.9	2.5
	5級	44	36.4	2.3	61.4	0.0
	6級	45	22.2	2.2	73.3	2.2

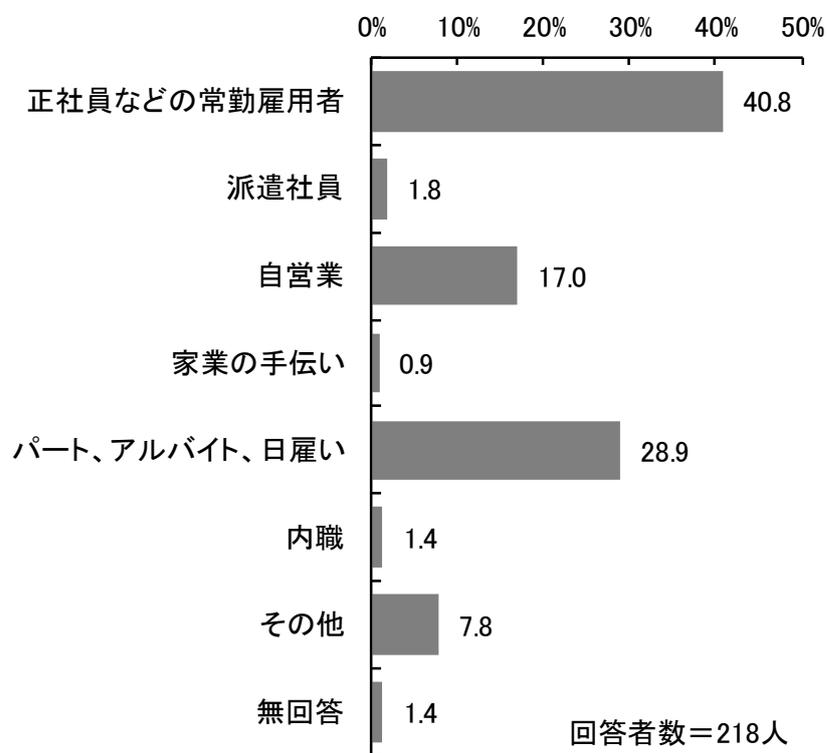
単位：%

(2) 仕事の形態

★問 17-①は、問 17で「1.仕事をしている」に○をした方
問 17-① 雇用の形態は何ですか。(○は1つだけ)

「仕事をしている」と回答した方の仕事の形態は、「正社員などの常勤雇用者」が40.8%で最も高く、次いで「パート、アルバイト、日雇い」28.9%、「自営業」17.0%となっている。

図表 I-28 仕事の形態



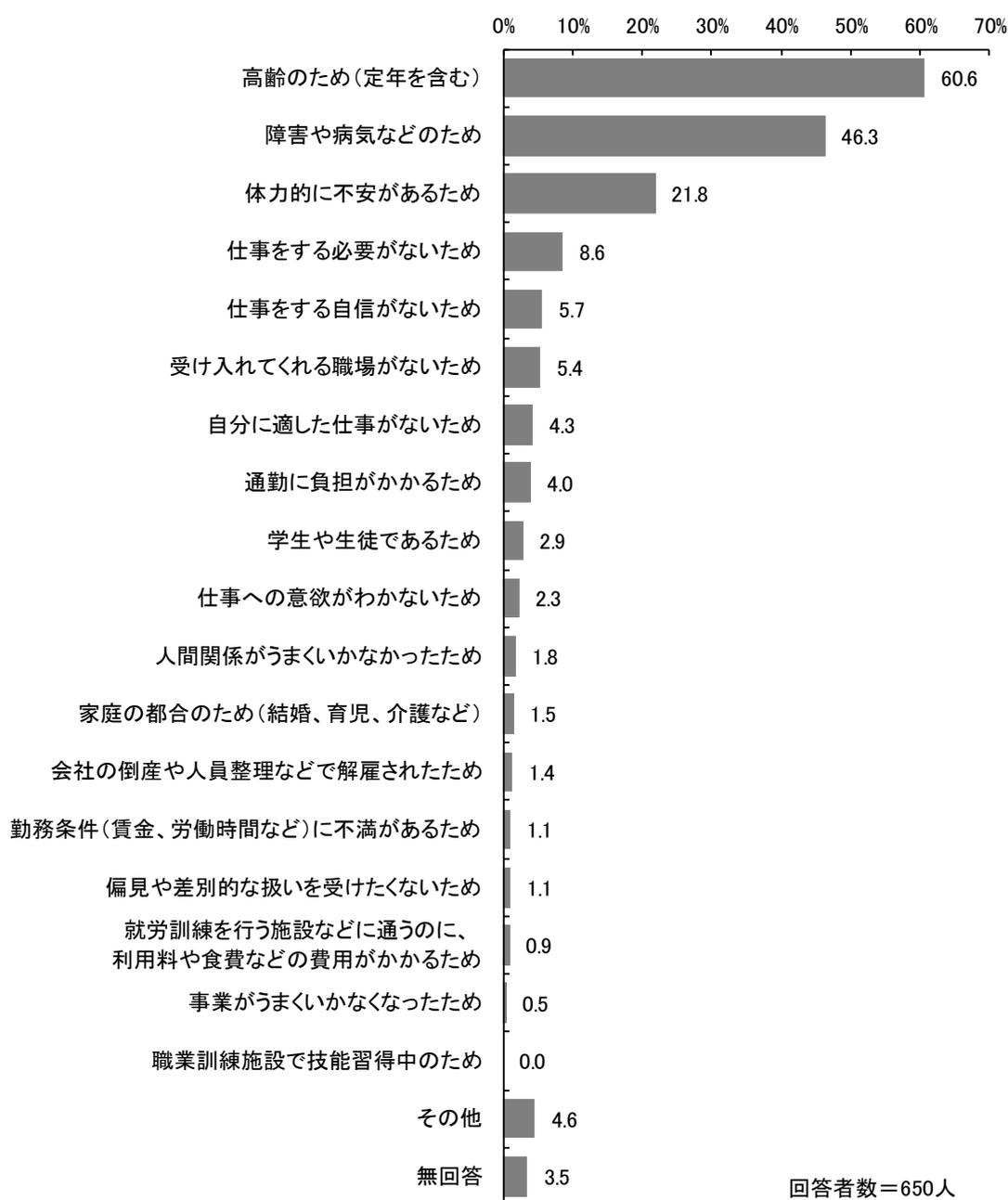
(3) 仕事をしていない理由

★問 17-②は、問 17で「3.仕事をしていない」に○をした方

問 17-② 現在、仕事をしていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

「仕事をしていない」と回答した方の仕事をしていない理由は、「高齢のため（定年を含む）」が60.6%で最も高く、次いで「障害や病気などのため」46.3%、「体力的に不安があるため」21.8%となっている。

図表 I-29 仕事をしていない理由

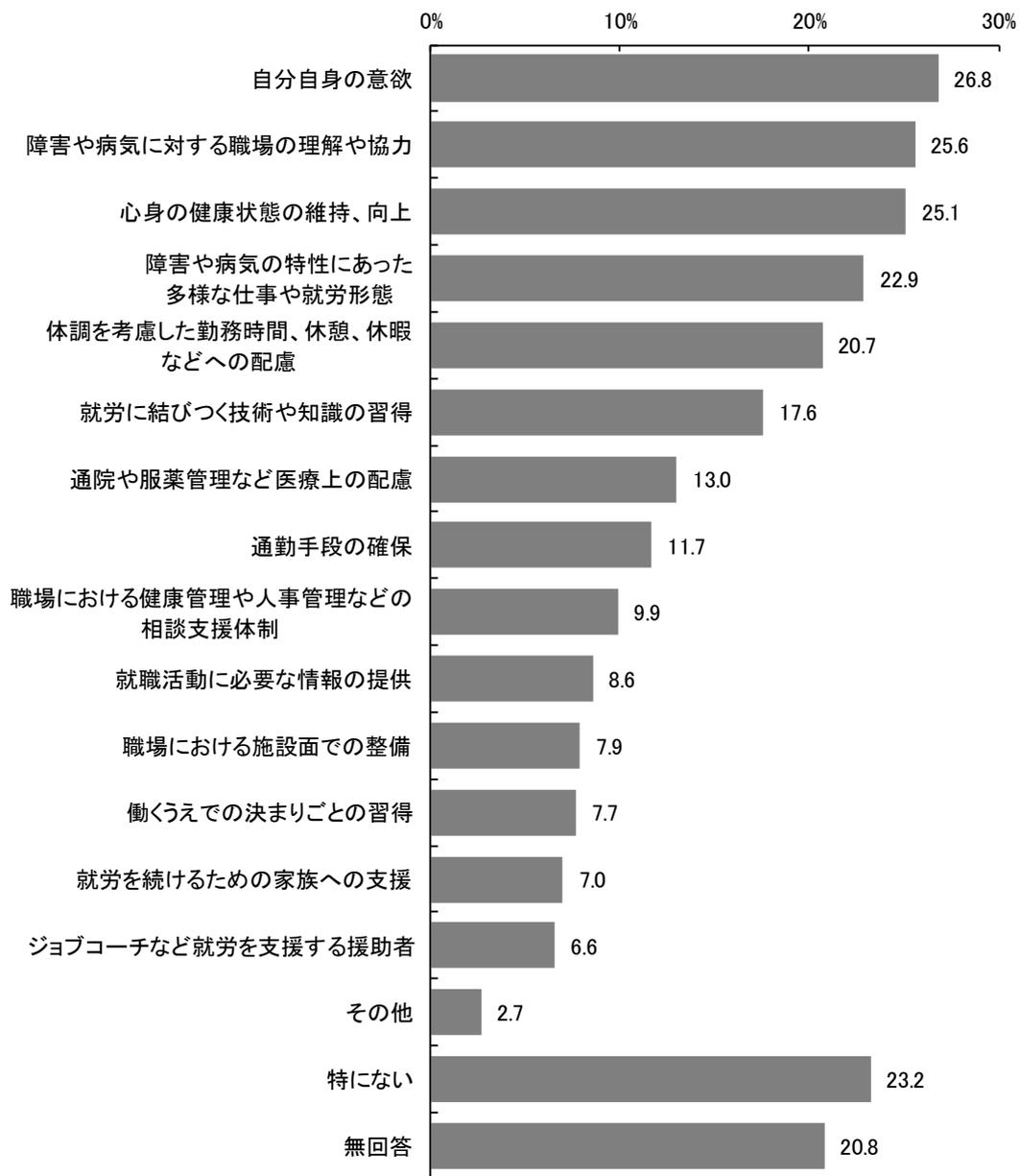


(4) 仕事をする（していく）ために必要なこと

問 18 仕事をする（していく）ために必要なことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

仕事をする（していく）ために必要なことは、「自分自身の意欲」が 26.8%で最も高く、次いで「障害や病気に対する職場の理解や協力」25.6%、「心身の健康状態の維持、向上」25.1%となっている。

図表 I-30 仕事をする（していく）ために必要なこと



回答者数=899人

*ジョブコーチとは、障害のある方と一緒に職場に入り、障害のある方が一人で仕事ができるようになるまでの手助けや障害のある方と事業者との間の調整などを行う指導者のこと。

障害の種類別にみると、視覚障害では「障害や病気に対する職場の理解や協力」「障害や病気の特性にあった多様な仕事や就労形態」、聴覚・平衡機能障害では「障害や病気に対する職場の理解や協力」「自分自身の意欲」、言語障害では「障害や病気に対する職場の理解や協力」「心身の健康状態の維持、向上」、肢体不自由では「自分自身の意欲」「障害や病気に対する職場の理解や協力」、内部障害では「心身の健康状態の維持、向上」の割合が高くなっている。

図表 I-3 1 仕事をする（していく）ために必要なこと（障害の種類別）

		回答者数 人	自分自身の意欲	障害や病気に対する職場の理解や協力	心身の健康状態の維持向上	障害や病気の特性にあった多様な仕事や就労形態	憩休や休暇などの配慮	体調を考慮した勤務時間休憩	就労に結びつく技術や知識の習得	通院や服薬管理など医療上の配慮	通勤手段の確保	職場における健康管理や人事管理などの相談支援体制
全体		899	26.8	25.6	25.1	22.9	20.7	17.6	13.0	11.7	9.9	
障害の種類別	視覚障害	83	26.5	28.9	20.5	28.9	20.5	21.7	15.7	13.3	14.5	
	聴覚・平衡機能障害	116	29.3	33.6	21.6	28.4	19.0	26.7	12.9	10.3	10.3	
	言語障害	41	24.4	31.7	31.7	24.4	19.5	22.0	17.1	22.0	17.1	
	肢体不自由	392	28.3	27.0	25.5	24.2	21.2	19.1	12.0	16.8	12.5	
	内部障害	291	26.5	24.1	29.2	20.3	24.4	14.4	15.1	8.6	7.6	

		回答者数 人	就職活動に必要な情報の提供	職場における施設面での整備	働くうえでの決まりごとの習得	就労を続けるための家族への支援	ジョブコーチなど就労を支援する援助者	その他	特になし	無回答
全体		899	8.6	7.9	7.7	7.0	6.6	2.7	23.2	20.8
障害の種類別	視覚障害	83	12.0	12.0	7.2	10.8	13.3	3.6	22.9	24.1
	聴覚・平衡機能障害	116	6.9	12.9	12.9	8.6	10.3	6.9	20.7	17.2
	言語障害	41	17.1	19.5	12.2	14.6	14.6	2.4	22.0	24.4
	肢体不自由	392	8.9	9.2	7.9	8.7	7.7	2.6	23.5	18.9
	内部障害	291	7.9	4.8	7.9	5.2	2.4	3.8	23.0	17.9

単位：％

年代別にみると、就学期（5～17歳）では「障害や病気に対する職場の理解や協力」「障害や病気の特性にあった多様な仕事や就労形態」、青年期（18～39歳）では「体調を考慮した勤務時間、休憩、休暇などへの配慮」「心身の健康状態の維持、向上」、壮年期（40～64歳）では「障害や病気に対する職場の理解や協力」の割合が高くなっている。

図表 I-3 2 仕事をする（していく）ために必要なこと（年代別）

		回答者数人	自分自身の意欲	障害や病気に対する職場の理解や協力	心身の健康状態の維持向上	多様な仕事や就労形態	障害や病気の特性にあった	体調を考慮した勤務時間 休憩 休暇などの配慮	就労に結びつく技術や知識の習得	療上の配慮	通院や服薬管理など医療上の配慮	通勤手段の確保	職場における健康管理や人事管理などの相談支援体制
全体		899	26.8	25.6	25.1	22.9	20.7	17.6	13.0	11.7	9.9		
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0		
	就学期（5～17歳）	19	21.1	57.9	21.1	52.6	26.3	42.1	21.1	21.1	15.8		
	青年期（18～39歳）	31	45.2	41.9	51.6	48.4	58.1	35.5	38.7	19.4	25.8		
	壮年期（40～64歳）	192	36.5	44.8	34.4	40.6	37.0	29.2	21.4	19.8	19.3		
	高齢期（65歳以上）	546	23.6	15.4	21.4	14.8	13.6	11.7	8.1	7.9	5.9		

		回答者数人	就職活動に必要な情報の提供	職場における施設面での整備	働くうえでの決まりごとの習得	就労を続けるための家族の支援	ジョブコーチなど就労を支援する援助者	その他	特になし	無回答
全体		899	8.6	7.9	7.7	7.0	6.6	2.7	23.2	20.8
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	31.6	21.1	15.8	21.1	21.1	15.8	10.5	0.0
	青年期（18～39歳）	31	16.1	29.0	22.6	12.9	19.4	0.0	12.9	9.7
	壮年期（40～64歳）	192	17.7	14.6	8.9	12.5	9.9	4.7	14.1	5.2
	高齢期（65歳以上）	546	4.4	4.0	6.2	3.3	4.4	1.8	27.5	27.3

単位：%

7. 経済基盤について

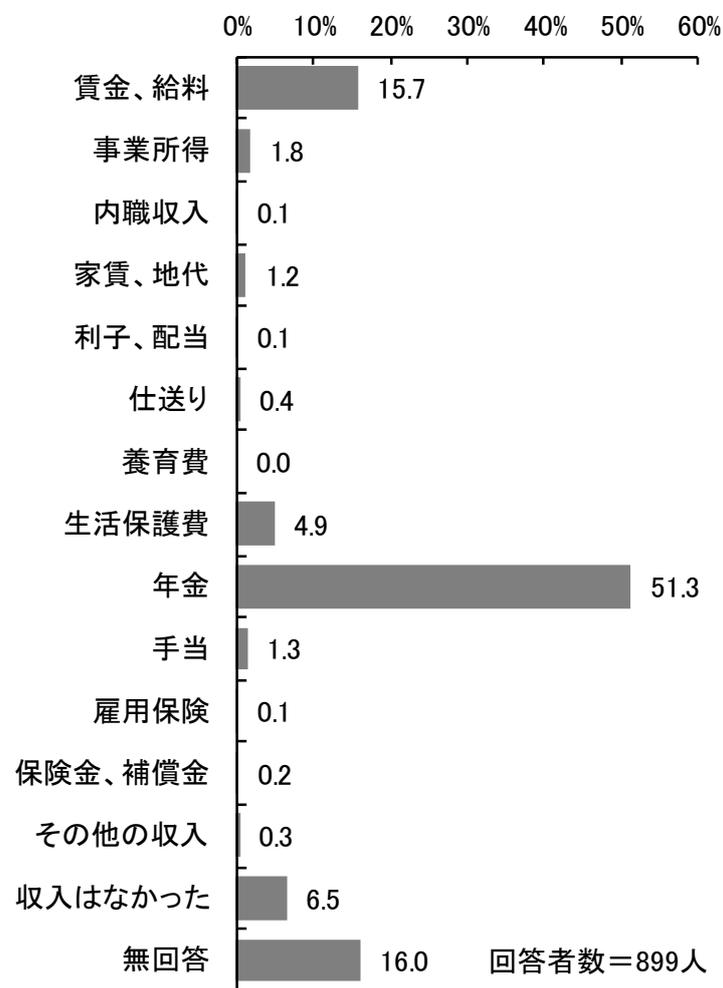
(1) 令和3年中の収入源

問 19 昨年あなたの収入は何によるものですか。

(主なもの1つに◎、その他該当するものがあれば2つまで○)

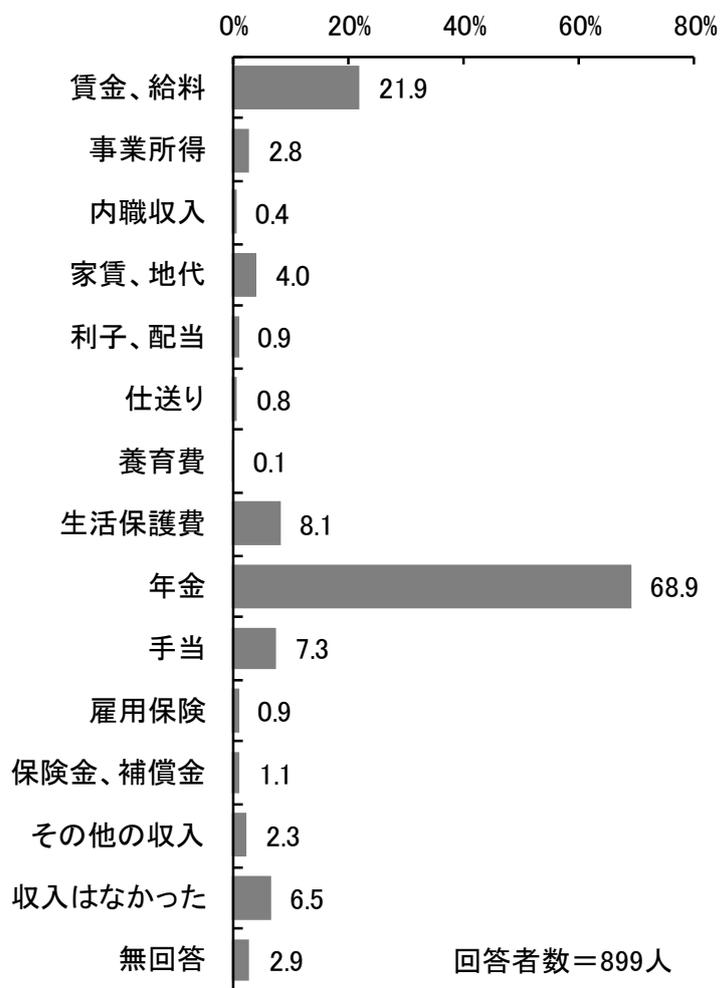
令和3年中の収入源（主なもの）は、「年金」が51.3%で半数以上を占めている。次いで「賃金、給料」15.7%、「生活保護費」4.9%となっている。

図表 I-3 3 令和3年中の収入源（主なもの）



令和3年中の収入源（該当するものすべて）は、「年金」が68.9%で最も高く、次いで「賃金、給料」21.9%、「生活保護費」8.1%となっている。

図表 I-3 4 令和3年中の収入源（該当するものすべて）

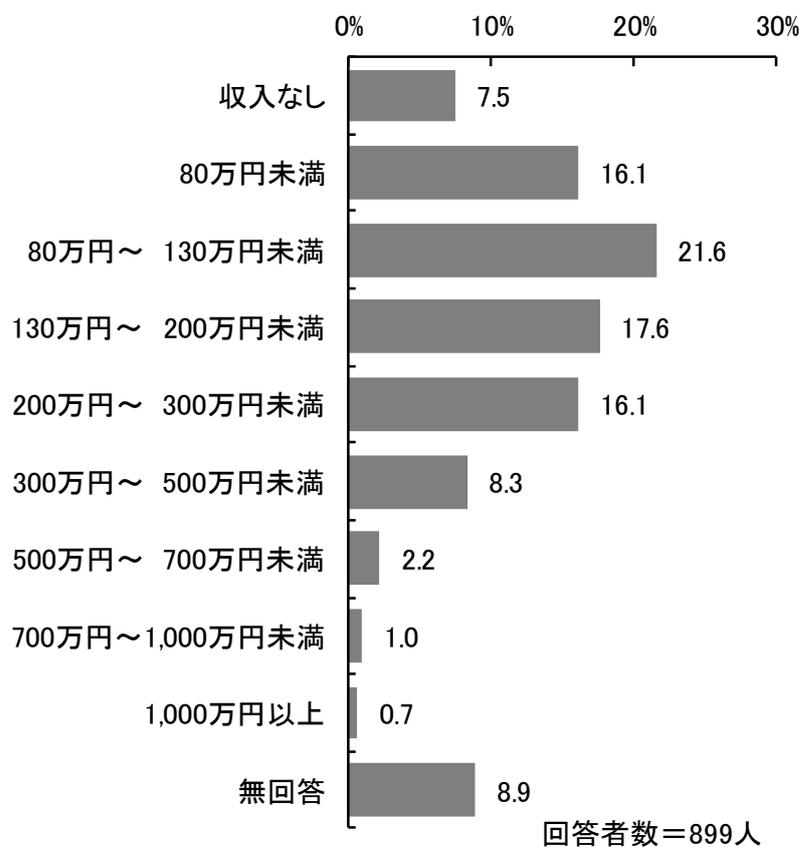


(2) 令和3年中の収入額

問 20 昨年中のすべての収入額はどれくらいでしたか。(〇は1つだけ)

令和3年中の収入額は、「80万円～130万円未満」が21.6%で最も高く、次いで「130万円～200万円未満」17.6%、「80万円未満」「200万円～300万円未満」がともに16.1%となっている。また、「収入なし」は7.5%である。

図表 I-3 5 令和3年中の収入額



*収入には、あなたご自身が働いて得た収入のほか、あなたの年金や手当による収入、家族からの仕送りを含みますが、生活保護費は除きます。

8. 福祉サービスについて

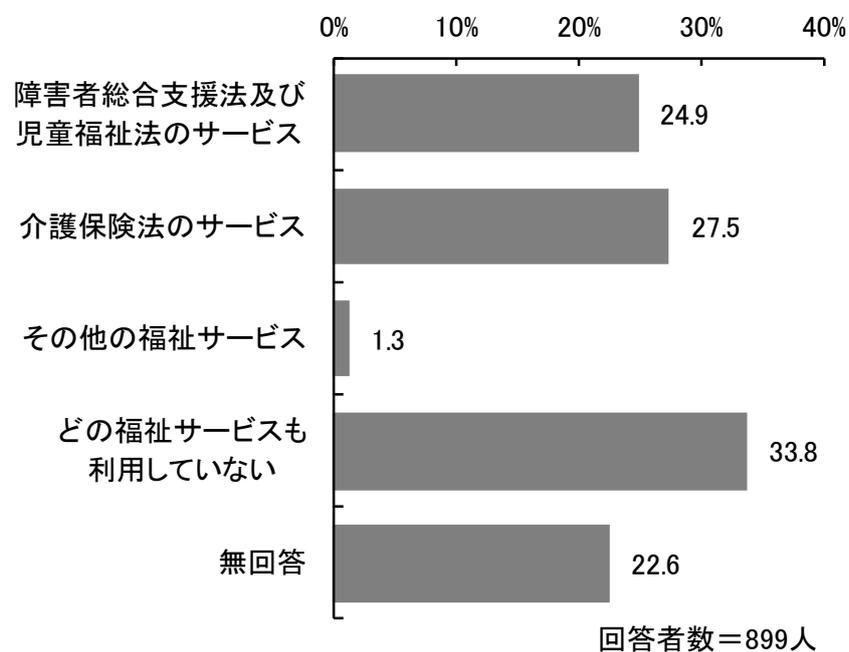
(1) 福祉サービスの利用状況

問 21 あなたはどのような福祉サービスを利用していますか。(〇はあてはまるものすべて)

福祉サービスの利用状況（全体）は、「介護保険法のサービス」が 27.5%で最も高く、次いで「障害者総合支援法及び児童福祉法のサービス」が 24.9%となっている。

一方、「どの福祉サービスも利用していない」は 33.8%である。

図表 I-3 6 福祉サービスの利用状況（全体）



障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚・平衡機能障害では「障害者総合支援法及び児童福祉法のサービス」、言語障害では「障害者総合支援法及び児童福祉法のサービス」と「介護保険法のサービス」、肢体不自由では「介護保険法のサービス」、内部障害では「どの福祉サービスも利用していない」の割合が高くなっている。

年代別にみると、高齢期（65歳以上）で「介護保険法のサービス」を利用している人は35.7%、「障害者総合支援法及び児童福祉法のサービス」を利用している人は19.2%となっている。

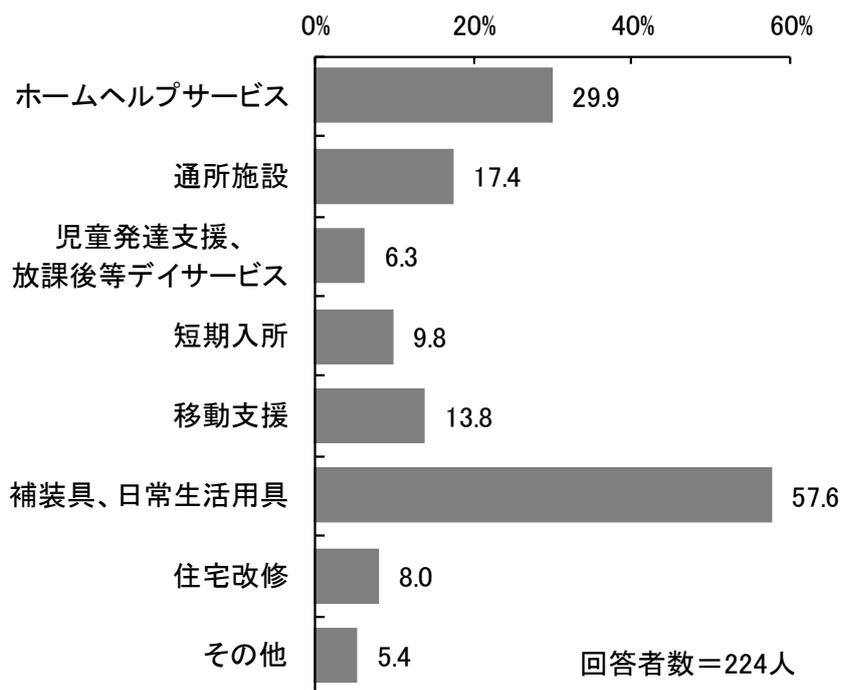
図表 I-37 福祉サービスの利用状況（全体）
（障害の種類別/障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	障害者総合支援法及び 児童福祉法のサービス	介護保険法のサービス	その他の福祉サービス	どの福祉サービスも利用 していない	無回答
全体		899	24.9	27.5	1.3	33.8	22.6
障害の種類別	視覚障害	83	33.7	27.7	1.2	31.3	16.9
	聴覚・平衡機能障害	116	34.5	28.4	0.9	26.7	22.4
	言語障害	41	41.5	48.8	2.4	19.5	7.3
	肢体不自由	392	28.6	32.9	1.5	30.4	19.6
	内部障害	291	20.6	23.4	2.1	39.2	23.7
障害の程度別	1級	321	28.3	32.7	2.2	27.7	21.8
	2級	131	28.2	33.6	0.0	29.8	19.8
	3級	136	19.9	19.9	0.7	46.3	21.3
	4級	199	22.1	22.1	1.5	35.2	25.6
	5級	44	18.2	9.1	2.3	56.8	20.5
	6級	45	26.7	31.1	0.0	24.4	26.7
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	63.2	0.0	0.0	36.8	0.0
	青年期（18～39歳）	31	54.8	0.0	0.0	45.2	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	28.6	13.5	1.0	46.9	16.7
	高齢期（65歳以上）	546	19.2	35.7	1.6	28.4	27.3

単位：%

障害者総合支援法及び児童福祉法のサービスの利用状況は、「補装具、日常生活用具」が57.6%で最も高く、次いで「ホームヘルプサービス（重度訪問介護、同行援護、行動援護を含む）」29.9%、「通所施設（生活介護、就労移行支援、就労継続支援）」17.4%となっている。

図表 I-38 障害者総合支援法及び児童福祉法のサービスの利用状況



※ホームヘルプサービス（重度訪問介護、同行援護、行動援護を含む）

※通所施設（生活介護、就労移行支援、就労継続支援）

※短期入所（ショートステイ）

障害の種類別にみると、視覚障害では「ホームヘルプサービス（重度訪問介護、同行援護、行動援護を含む）」、聴覚・平衡機能障害、言語障害、肢体不自由、内部障害では「補装具、日常生活用具」の割合が高くなっている。

障害の程度別にみると、1級では「ホームヘルプサービス（重度訪問介護、同行援護、行動援護を含む）」が他の障害程度より高くなっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）では「通所施設（生活介護、就労移行支援、就労継続支援）」の割合が58.8%と高く、就学期（5～17歳）、壮年期（40～64歳）、高齢期（65歳以上）では「補装具、日常生活用具」の割合が高くなっている。

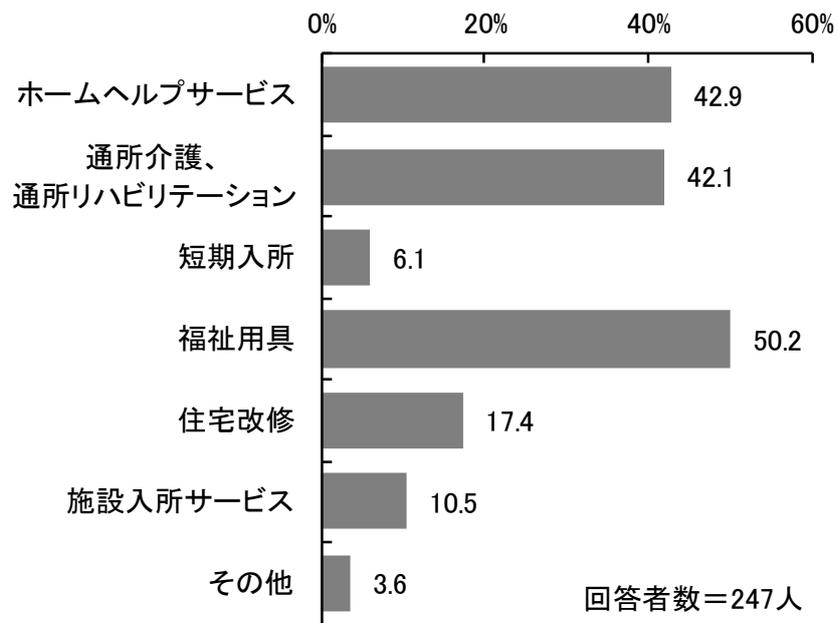
図表 I-39 障害者総合支援法及び児童福祉法のサービスの利用状況
(障害の種類別/障害の程度別/年代別)

		回答者数 人	ホームヘルプサービス 同行援護 行動援護を含む	通所施設 生活介護 就労移行支 援 就労継続支援	児童発達支援 放課後等デイサ ービス	短期入所 ショートステイ	移動支援	補装具 日常生活用具	住宅改修	その他
全体		224	29.9	17.4	6.3	9.8	13.8	57.6	8.0	5.4
障害の種類別	視覚障害	28	60.7	14.3	3.6	0.0	3.6	46.4	7.1	3.6
	聴覚・平衡機能障害	40	25.0	7.5	7.5	10.0	10.0	62.5	10.0	5.0
	言語障害	17	23.5	23.5	11.8	11.8	5.9	52.9	0.0	0.0
	肢体不自由	112	31.3	25.0	8.0	15.2	19.6	57.1	11.6	7.1
	内部障害	60	26.7	5.0	3.3	6.7	11.7	65.0	6.7	3.3
障害の程度別	1級	91	47.3	14.3	7.7	14.3	20.9	45.1	7.7	5.5
	2級	37	24.3	29.7	8.1	13.5	13.5	67.6	2.7	2.7
	3級	27	14.8	14.8	3.7	7.4	11.1	63.0	11.1	7.4
	4級	44	13.6	18.2	2.3	2.3	4.5	65.9	11.4	4.5
	5級	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	75.0	12.5	0.0
	6級	12	25.0	8.3	16.7	8.3	8.3	58.3	8.3	8.3
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	12	33.3	0.0	66.7	25.0	25.0	91.7	8.3	0.0
	青年期（18～39歳）	17	29.4	58.8	0.0	47.1	47.1	47.1	11.8	0.0
	壮年期（40～64歳）	55	25.5	18.2	0.0	5.5	12.7	69.1	1.8	5.5
	高齢期（65歳以上）	105	31.4	12.4	1.9	5.7	9.5	51.4	13.3	5.7

単位：%

介護保険法のサービスの利用状況は、「福祉用具」が50.2%で最も高く、次いで「ホームヘルプサービス（訪問介護）」42.9%、「通所介護、通所リハビリテーション」42.1%となっている。

図表 I-40 介護保険法のサービスの利用状況



※ホームヘルプサービス（訪問介護）
※短期入所（ショートステイ）

障害の種類別にみると、肢体不自由と内部障害では半数以上が「福祉用具」を利用している。また、言語障害と内部障害では半数以上が「ホームヘルプサービス（訪問介護）」を利用している。

図表 I-4 1 介護保険法のサービスの利用状況
(障害の種類別/障害の程度別/年代別)

		回答者数 △	ホームヘルプサービス 訪問介護	通所介護 通所リハビリテーション	短期入所 ショートステイ	福祉用具	住宅改修	施設入所サービス	その他
全体		247	42.9	42.1	6.1	50.2	17.4	10.5	3.6
障害の種類別	視覚障害	23	39.1	30.4	4.3	34.8	13.0	13.0	8.7
	聴覚・平衡機能障害	33	30.3	36.4	6.1	48.5	18.2	12.1	9.1
	言語障害	20	50.0	35.0	10.0	45.0	30.0	20.0	15.0
	肢体不自由	129	43.4	45.0	6.2	58.1	19.4	10.9	2.3
	内部障害	68	54.4	35.3	5.9	57.4	14.7	8.8	4.4
障害の程度別	1級	105	49.5	37.1	7.6	47.6	15.2	11.4	3.8
	2級	44	31.8	50.0	6.8	59.1	18.2	6.8	4.5
	3級	27	37.0	44.4	0.0	48.1	22.2	14.8	3.7
	4級	44	47.7	50.0	4.5	50.0	15.9	9.1	2.3
	5級	4	50.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
	6級	14	14.3	42.9	14.3	42.9	21.4	21.4	7.1
年代別	幼児期（0～4歳）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	青年期（18～39歳）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	壮年期（40～64歳）	26	38.5	53.8	7.7	69.2	15.4	7.7	3.8
	高齢期（65歳以上）	195	41.5	41.5	5.6	48.7	18.5	11.3	3.1

単位：％

(2) サービス提供事業者に対して望むこと

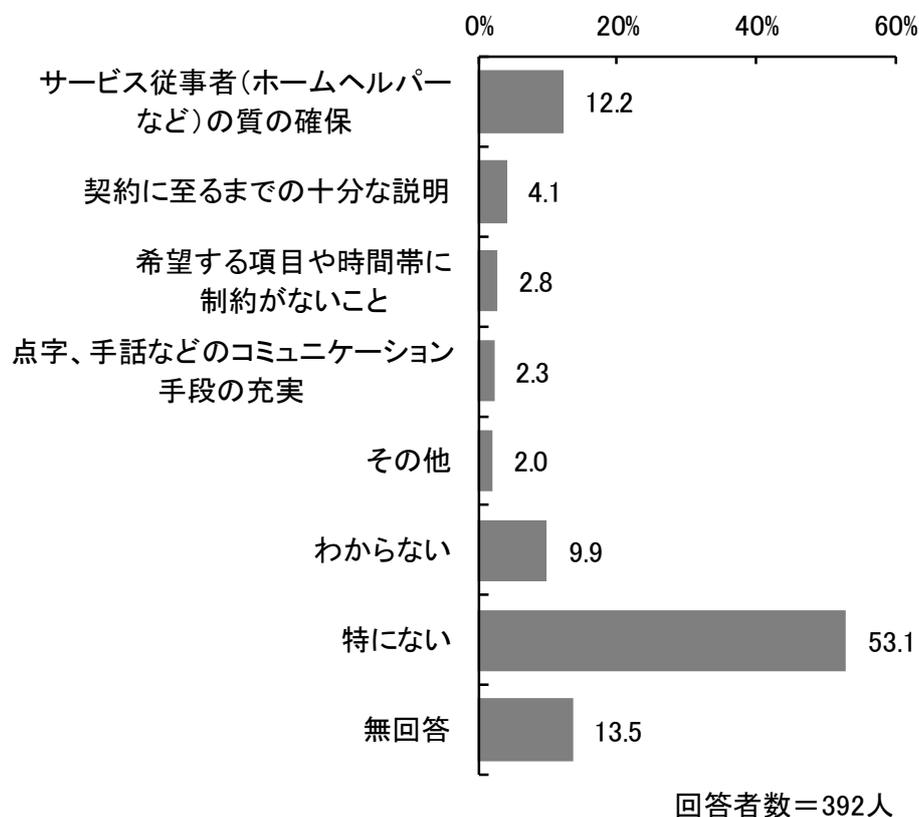
★問21-①～③は、問21で「2.」～「17.」のいずれかに○をした方

問21-① あなたは現在、利用しているサービス提供事業者に対して何か望むことはありますか。(○は1つだけ)

サービス提供事業者に対して望むことは、「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」が12.2%で最も高く、次いで「契約に至るまでの十分な説明」4.1%、「希望する項目や時間帯に制約がないこと」2.8%となっている。

一方、「特にない」は53.1%である。

図表 I-4 2 サービス提供事業者に対して望むこと



障害の種類別にみると、視覚障害と言語障害では「サービス従事者(ホームヘルパーなど)の質の確保」、聴覚・平衡機能障害では「点字、手話などのコミュニケーション手段の充実」の割合が、他の障害種類より高くなっている。

図表 I-43 サービス提供事業者に対して望むこと(障害の種類別)

		回答者数	サービス従事者ホームヘルパーなどの質の確保	契約に至るまでの十分な説明	希望する項目や時間帯に制約がないこと	点字 手話などのコミュニケーション手段の充実	その他	わからない	特になし	無回答
全体		392	12.2	4.1	2.8	2.3	2.0	9.9	53.1	13.5
障害の種類別	視覚障害	43	23.3	0.0	0.0	2.3	0.0	7.0	53.5	14.0
	聴覚・平衡機能障害	59	15.3	8.5	3.4	15.3	0.0	10.2	37.3	10.2
	言語障害	30	23.3	6.7	3.3	0.0	3.3	10.0	46.7	6.7
	肢体不自由	196	13.8	4.1	3.6	0.0	3.6	9.2	53.1	12.8
	内部障害	108	12.0	3.7	1.9	0.0	1.9	12.0	54.6	13.9

単位：%

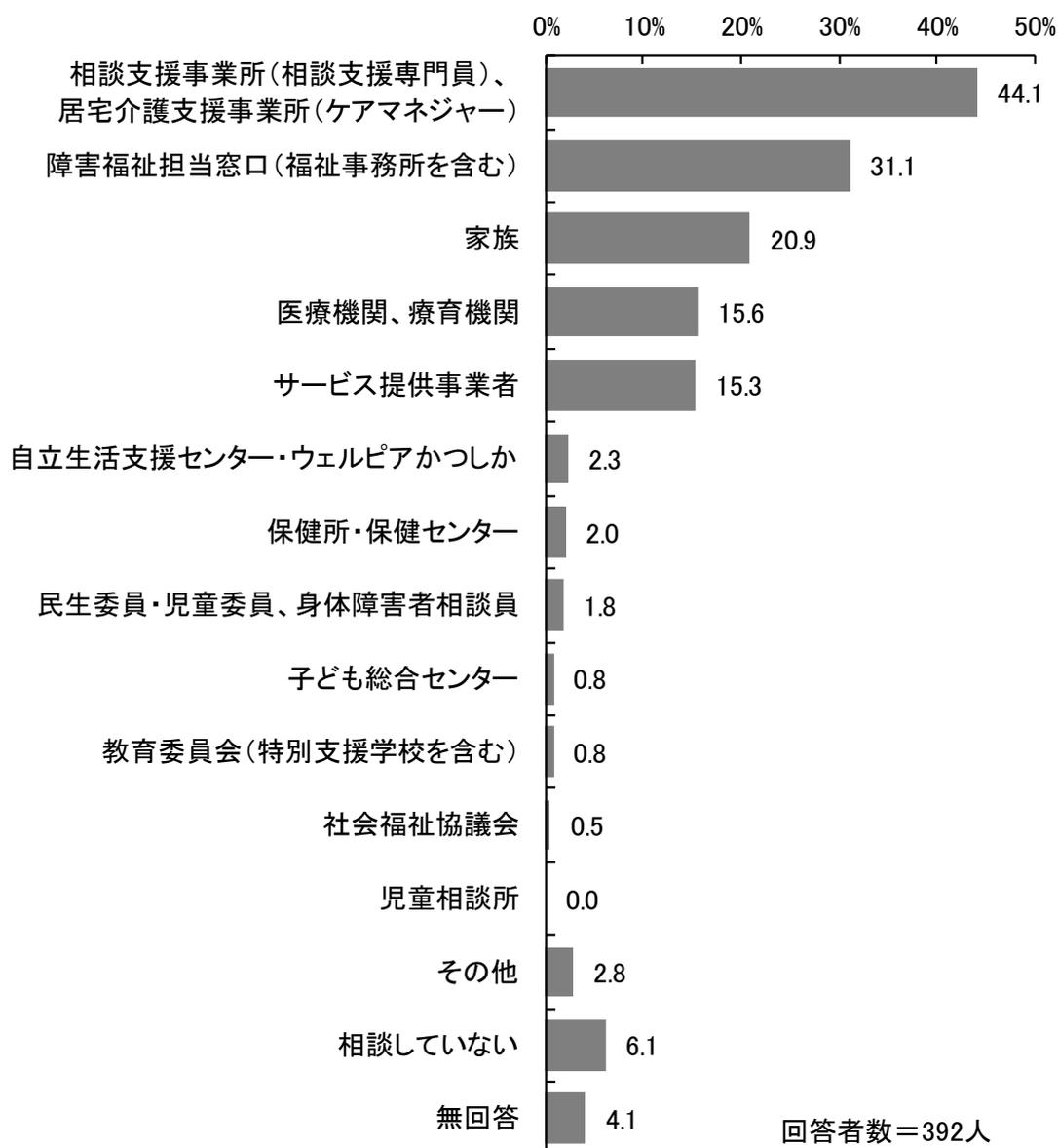
(3) サービスを利用する際の相談先

問 21-② あなたは福祉サービスを利用する際にどこに相談しましたか。

(○はあてはまるものすべて)

サービスを利用する際の相談先は、「相談支援事業所（相談支援専門員）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」が44.1%で最も高く、次いで「障害福祉担当窓口（福祉事務所を含む）」31.1%となっている。

図表 I-44 サービスを利用する際の相談先



障害の種類別にみると、すべての障害種類で「相談支援事業所（相談支援専門員）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」が第1位、次いで、障害福祉担当窓口（福祉事務所を含む）」が第2位となっている。

図表 I-4 5 サービスを利用する際の相談先（障害の種類別）

		回答者数 人	相談支援事業所 相談支援専門員、 居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	障害福祉担当窓口 （福祉事務所を含む）	家族	医療機関 療育機関	サービス提供事業者	自立生活支援センター ヘルピアカツしか	保健所 保健センター	民生委員 児童委員 身体障害者相談員
全 体		392	44.1	31.1	20.9	15.6	15.3	2.3	2.0	1.8
障害の種類別	視覚障害	43	46.5	30.2	4.7	14.0	18.6	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	52	44.1	35.6	23.7	10.2	18.6	0.0	1.7	1.7
	言語障害	30	50.0	33.3	26.7	23.3	13.3	6.7	3.3	0.0
	肢体不自由	196	49.5	33.7	22.4	14.3	14.3	3.6	3.6	1.5
	内部障害	108	40.7	25.9	18.5	15.7	19.4	2.8	0.9	3.7

		回答者数 人	子ども総合センター	教育委員会 特別支援学校を含む	社会福祉協議会	児童相談所	その他	相談していない	無回答
全 体		392	0.8	0.8	0.5	0.0	2.8	6.1	4.1
障害の種類別	視覚障害	43	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	7.0	4.7
	聴覚・平衡機能障害	52	1.7	3.4	0.0	0.0	6.8	8.5	6.8
	言語障害	30	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3	3.3	3.3
	肢体不自由	196	1.0	0.5	0.5	0.0	3.1	4.6	1.0
	内部障害	108	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	10.2	6.5

単位：%

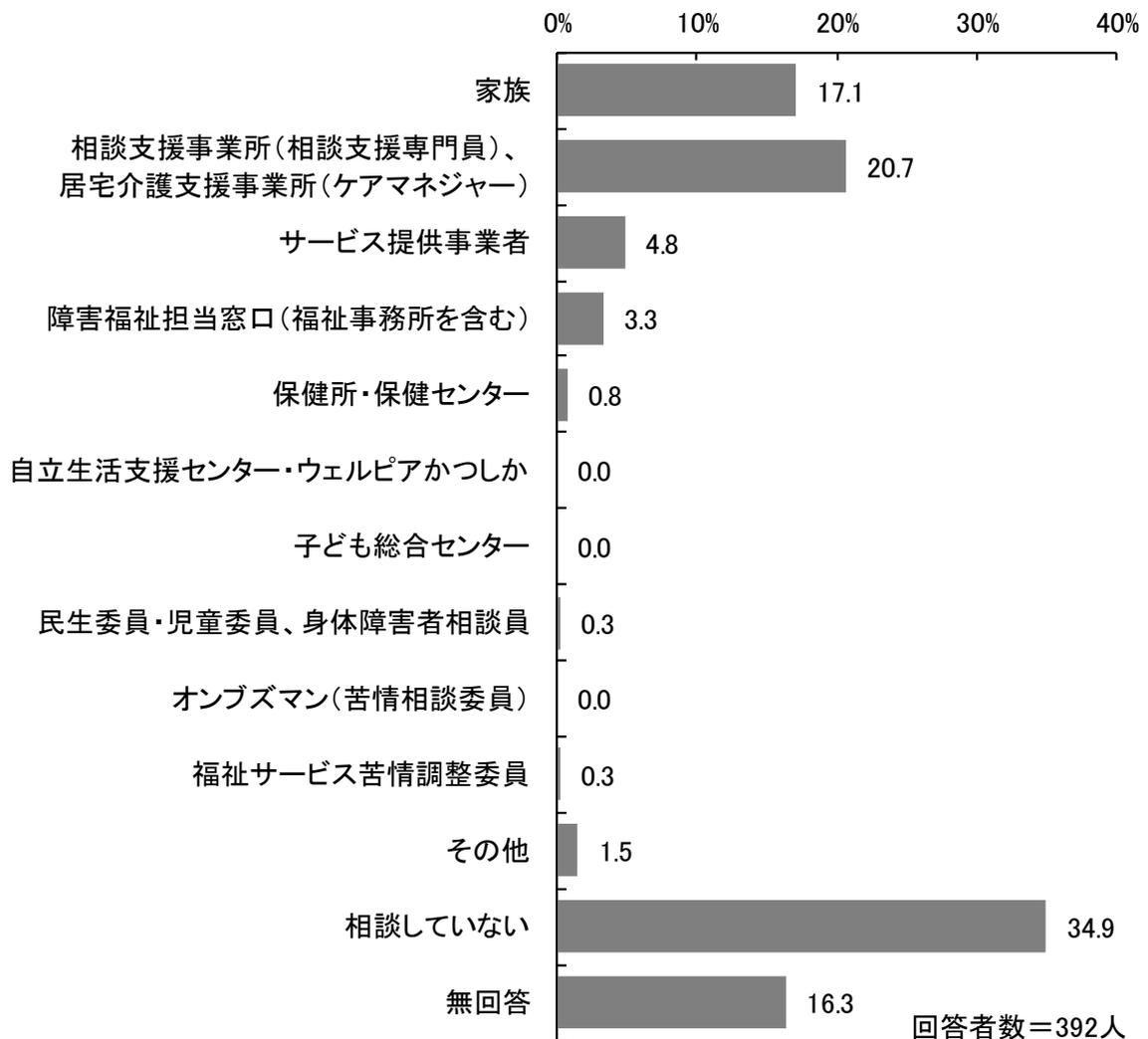
(4) サービス等への不満や苦情の主な相談先

問 21-③ あなたは、福祉サービスを利用したときの不満や苦情を主にどこに相談していますか。(〇は1つだけ)

サービス等への不満や苦情の主な相談先は、「相談支援事業所(相談支援専門員)、居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)」が20.7%で最も高く、次いで「家族」が17.1%となっている。

一方、「相談していない」は34.9%である。

図表 I-46 サービス等への不満や苦情の主な相談先

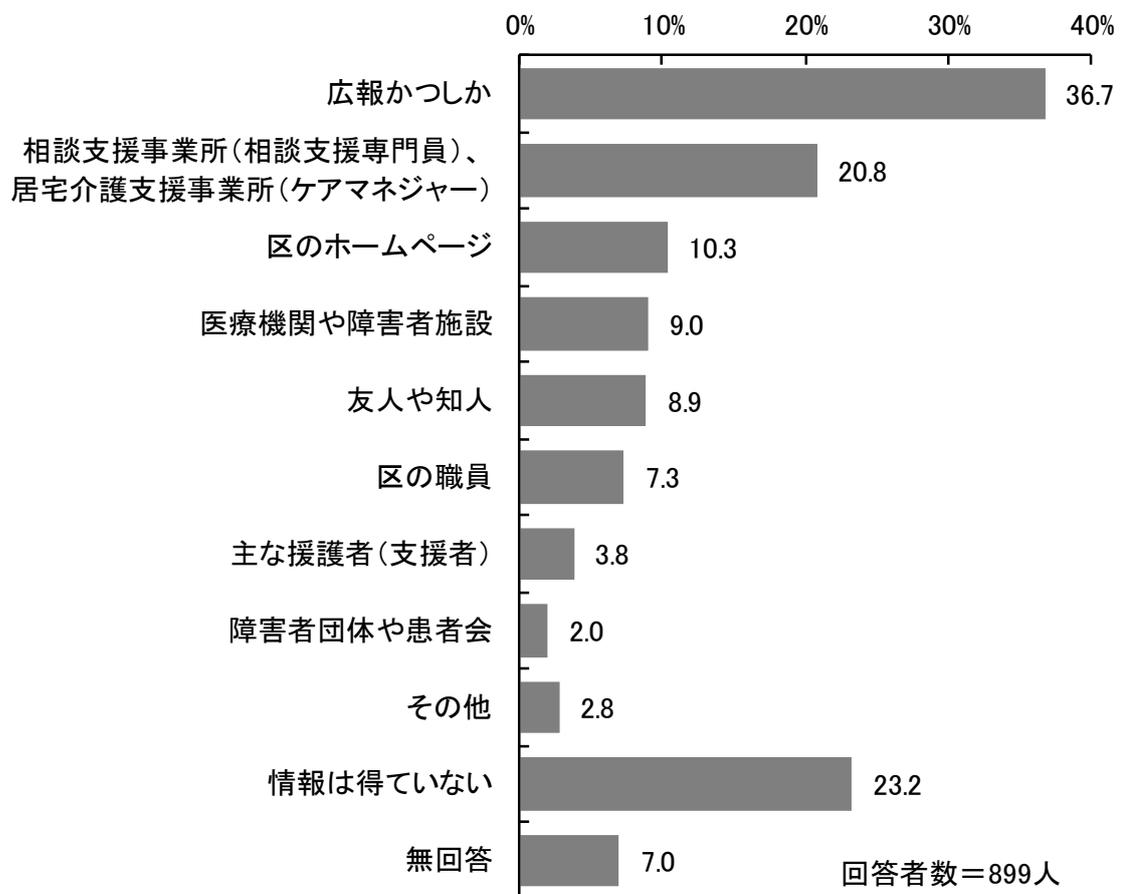


(5) 福祉サービスの情報源

問 22 福祉サービスの情報は、どこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

福祉サービスの情報源は、「広報かつしか」が36.7%で最も高く、次いで「相談支援事業所(相談支援専門員)、居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)」20.8%となっている。一方、「情報は得ていない」は23.2%である。

図表 I-47 福祉サービスの情報源



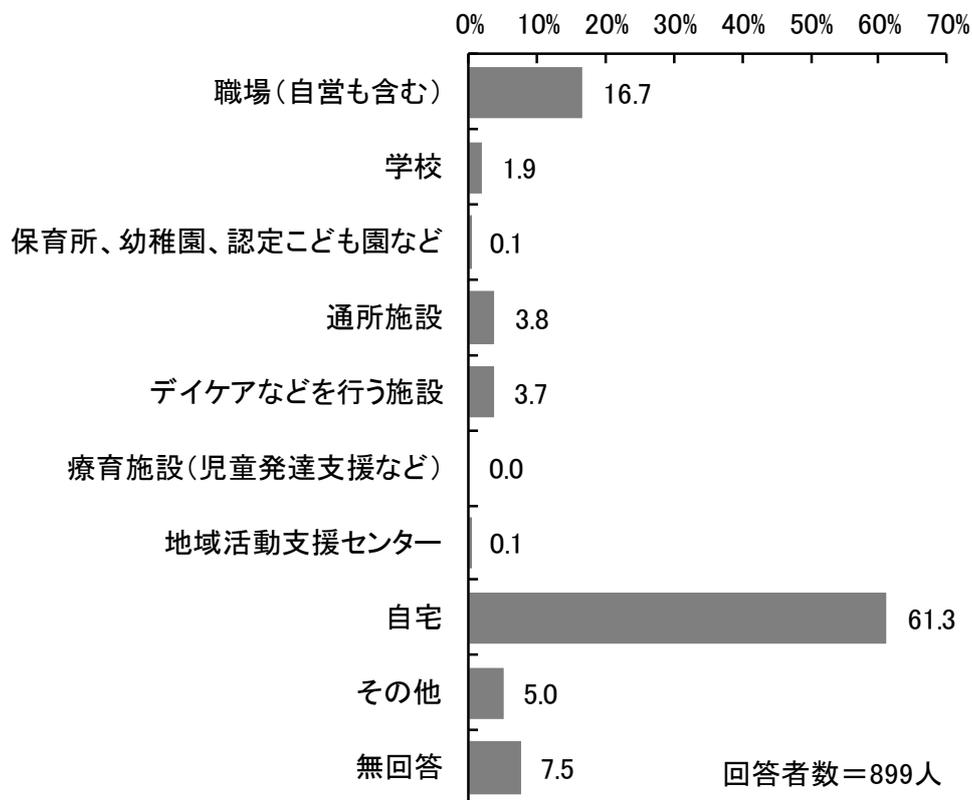
9. 社会参加などについて

(1) 平日の日中の、主な活動場所

問 23 この1年間あなたは、平日の日中、主にどこで過ごしましたか。(〇は1つだけ)

平日の日中の、主な活動場所は、「自宅」が61.3%で約6割を占めている。次いで「職場(自営も含む)」16.7%となっている。

図表 I-48 平日の日中の、主な活動場所



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「自宅」が第1位、「職場（自営も含む）」が第2位となっている。2級では「通所施設」が他の障害程度より高い割合となっている。

年代別にみると、高齢期（65歳以上）では「自宅」が73.3%と高くなっている。青年期（18～39歳）では「職場（自営も含む）」が41.9%と他の年代より高くなっている。

図表 I-49 平日の日中の、主な活動場所（障害の程度別/年代別）

		回答者数人	職場 自営も含む	学校	保育所 幼稚園 認定こども園など	通所施設	施設 デイケアなどを行う	療育施設 （児童発達支援など	地域活動支援センター	自宅	その他	無回答
全体		899	16.7	1.9	0.1	3.8	3.7	0.0	0.1	61.3	5.0	7.5
障害の程度別	1級	321	15.0	1.9	0.0	4.4	4.0	0.0	0.0	60.4	6.2	8.1
	2級	131	15.3	1.5	0.8	6.9	1.5	0.0	0.0	64.1	3.8	6.1
	3級	136	16.9	2.9	0.0	2.9	3.7	0.0	0.7	64.0	5.1	3.7
	4級	199	19.1	1.0	0.0	2.0	3.5	0.0	0.0	62.3	4.5	7.5
	5級	44	25.0	2.3	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	59.1	2.3	6.8
	6級	45	20.0	4.4	0.0	2.2	8.9	0.0	0.0	53.3	4.4	6.7
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	0.0	68.4	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	10.5
	青年期（18～39歳）	31	41.9	6.5	0.0	35.5	0.0	0.0	0.0	12.9	0.0	3.2
	壮年期（40～64歳）	192	39.6	0.0	0.0	3.1	1.6	0.0	0.5	43.2	3.1	8.9
	高齢期（65歳以上）	546	7.5	0.0	0.0	2.4	4.6	0.0	0.0	73.3	6.0	6.2

単位：%

(2) 日中活動を行うにあたって充実してほしいこと

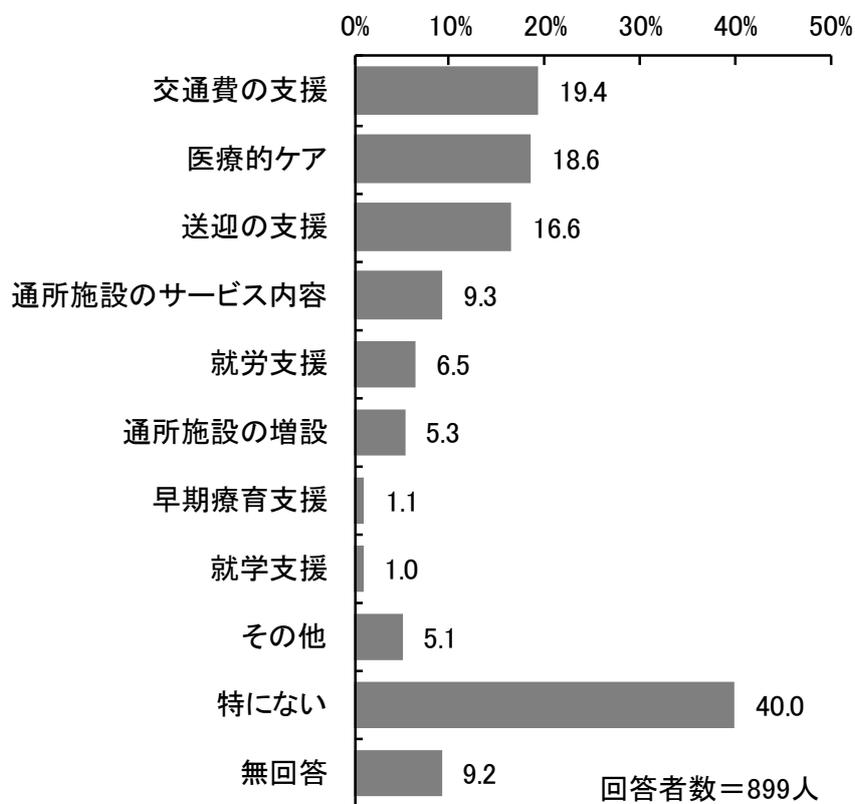
問 24 日中活動を行うにあたって、今後、充実してほしいことは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

日中活動を行うにあたって充実してほしいことは、「交通費の支援」が19.4%で最も高く、次いで「医療的ケア」18.6%、「送迎の支援」16.6%となっている。

一方、「特にない」は40.0%である。

図表 I-50 日中活動を行うにあたって充実してほしいこと



障害の程度別にみると、「特にない」という回答以外では、1級～5級の障害程度で「交通費の支援」「医療的ケア」が上位となっている。6級では「医療的ケア」22.2%で第1位となっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）では「交通費の支援」41.9%、「医療的ケア」29.0%、「通所施設のサービス内容」25.8%が他の年代より高くなっている。

図表 I-5 1 日中活動を行うにあたって充実してほしいこと（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	交通費の支援	医療的ケア	送迎の支援	通所施設のサービス内容	就労支援	通所施設の増設	早期療育支援	就学支援	その他	特にない	無回答
全体		899	19.4	18.6	16.6	9.3	6.5	5.3	1.1	1.0	5.1	40.0	9.2
障害の程度別	1級	321	21.5	19.6	18.7	10.3	5.9	5.0	0.6	1.2	4.4	35.8	8.7
	2級	131	21.4	18.3	17.6	9.9	6.9	6.1	0.8	2.3	6.9	42.7	8.4
	3級	136	19.9	16.9	16.2	8.8	11.8	2.9	1.5	0.7	6.6	43.4	6.6
	4級	199	17.6	17.1	15.6	8.0	4.5	6.0	1.0	0.0	5.0	40.2	11.1
	5級	44	18.2	18.2	9.1	2.3	2.3	4.5	2.3	2.3	2.3	54.5	6.8
	6級	45	13.3	22.2	15.6	15.6	6.7	8.9	4.4	0.0	6.7	42.2	8.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	31.6	15.8	21.1	15.8	21.1	26.3	0.0	26.3	10.5	21.1	5.3
	青年期（18～39歳）	31	41.9	29.0	16.1	25.8	12.9	9.7	0.0	3.2	25.8	16.1	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	24.0	15.1	10.4	4.7	15.1	6.8	2.1	0.5	9.4	44.3	5.7
	高齢期（65歳以上）	546	17.0	19.0	18.3	10.1	2.6	4.2	0.7	0.0	2.9	40.1	10.6

単位：%

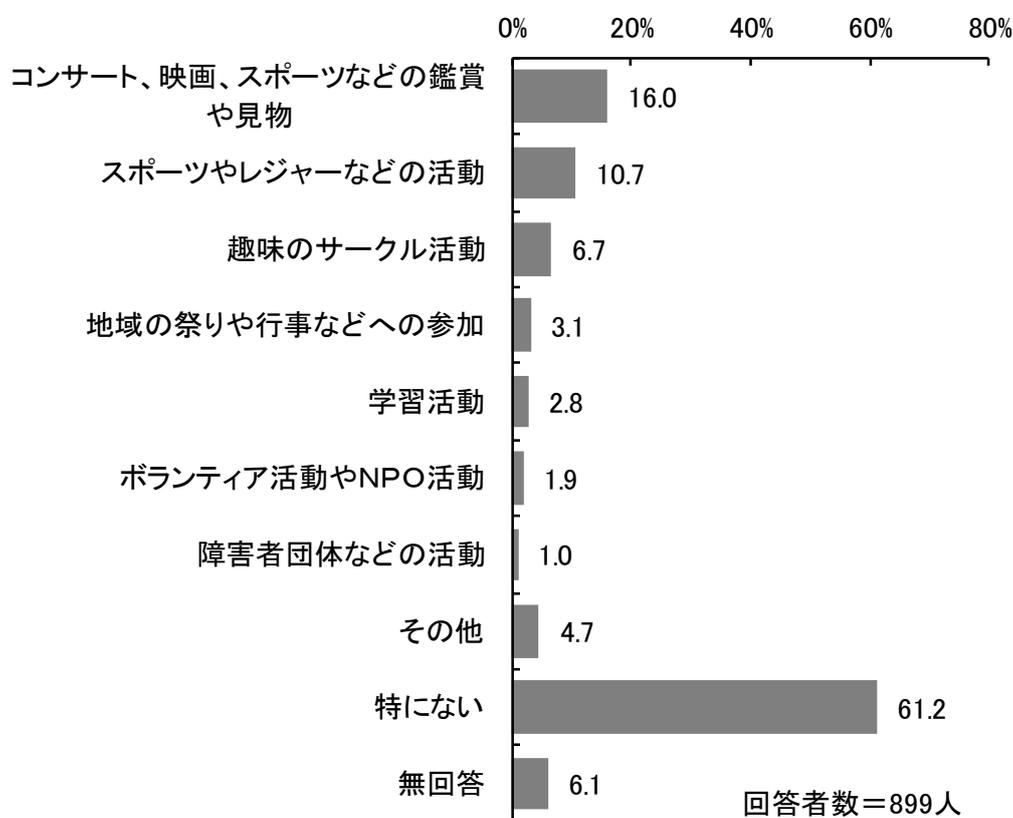
(3) 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動

問 25 あなたは、この1年間に趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動をしましたか。
(○はあてはまるものすべて)

趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動は、「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」が16.0%で最も高く、次いで「スポーツやレジャーなどの活動」10.7%、「趣味のサークル活動」6.7%となっている。

一方、「特にない」は61.2%である。

図表 I-5 2 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動



障害の程度別にみると、「特にない」という回答以外では、5級では「スポーツやレジャーなどの活動」、5級以外の障害程度では「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」が第1位となっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）では「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」、就学期（5～17歳）では「スポーツやレジャーなどの活動」「学習活動」「地域の祭りや行動などへの参加」、高齢期（65歳以上）では「趣味のサークル活動」の割合が他の年代より高くなっている。

図表 I-53 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動（障害の程度別/年代別）

		回答者数 △	コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物	スポーツやレジャーなどの活動	趣味のサークル活動	地域の祭りや行事などへの参加	学習活動	NPO活動 ボランティア活動や	障害者団体などの活動	その他	特にない	無回答
全体		899	16.0	10.7	6.7	3.1	2.8	1.9	1.0	4.7	61.2	6.1
障害の程度別	1級	321	14.6	10.9	5.3	2.5	2.5	2.2	1.6	4.4	63.6	5.9
	2級	131	22.1	9.9	7.6	1.5	5.3	0.8	0.8	5.3	51.9	6.9
	3級	136	13.2	8.8	3.7	2.9	3.7	2.9	0.7	6.6	66.9	4.4
	4級	199	18.1	12.1	9.5	6.0	1.0	2.5	0.5	3.5	61.8	4.5
	5級	44	13.6	15.9	11.4	2.3	2.3	0.0	0.0	2.3	61.4	4.5
	6級	45	15.6	8.9	4.4	2.2	4.4	0.0	0.0	4.4	57.8	8.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	36.8	31.6	0.0	10.5	21.1	0.0	5.3	0.0	42.1	0.0
	青年期（18～39歳）	31	48.4	25.8	6.5	6.5	9.7	0.0	6.5	19.4	32.3	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	24.0	13.0	2.1	0.0	4.2	2.1	0.5	5.2	59.4	2.1
	高齢期（65歳以上）	546	10.8	7.7	9.5	4.0	1.3	2.0	0.9	4.2	64.1	7.5

単位：%

(4) この1年間にスポーツを行った頻度と障害者スポーツを行った経験

問26 あなたは、この1年間にスポーツ（学校体育を除く）をどれくらい行いましたか。
 (○は1つだけ)

★ 問27は、問26で「1.週に3日以上」「2.週に1～2日」「3.月に1～3日」「4.3か月に1～2日」「5.年に1～3日」のいずれかに○をした方

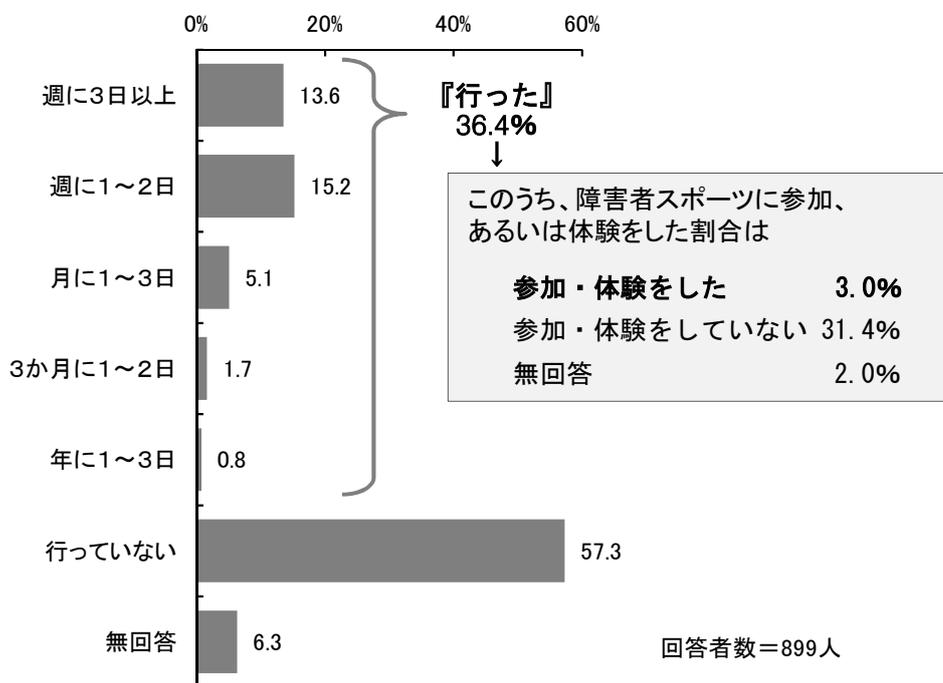
問27 あなたは、この1年間に障害者スポーツ（ボッチャ、ブラインドサッカー、フロアホッケーなど）に参加、あるいは体験をしたことがありますか。(○は1つだけ)

この1年間にスポーツを行った頻度は、「週に1～2日」が15.2%で最も高く、次いで「週に3日以上」13.6%、「月に1～3日」5.1%となっている。年代別にみると、スポーツを『行った』人は、19歳以下で58.3%、20歳以上で36.8%である。

一方、「行っていない」は57.3%である。

この1年間にスポーツを『行った』36.4%（327人）の内、障害者スポーツを行った経験について、回答者全体の3.0%が「参加、あるいは体験をした」、31.4%が「参加、あるいは体験をしていない」と回答している。

図表 I-5 4 この1年間にスポーツを行った頻度と障害者スポーツを行った経験



※『行った』=「週に3日以上」+「週に1～2日」+「月に1～3日」+「3か月に1～2日」+「年に1～3日」

*スポーツとは、サッカーや野球など競技スポーツだけでなく、ウォーキングや体操、ストレッチ、散歩、自転車などの20分程度の運動も含まれます。

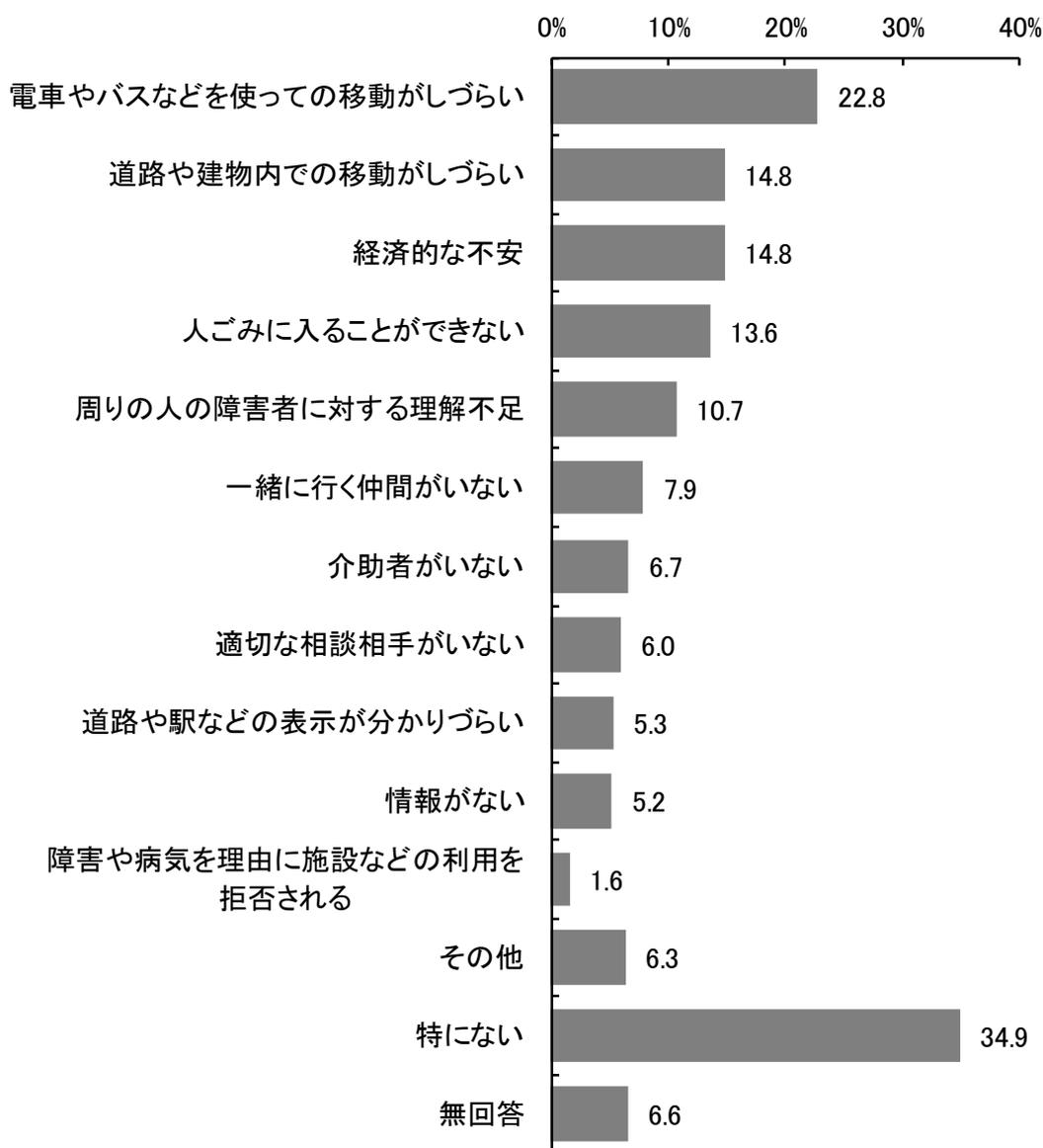
(5) 日常生活や社会参加で妨げになっていること

問 28 あなたが日常生活や社会参加をするうえで、特に妨げになっていることはありますか。
(〇は3つまで)

日常生活や社会参加で妨げになっていることは、「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」が 22.8%で最も高く、次いで「道路や建物内での移動がしづらい」「経済的な不安」がともに 14.8%となっている。

一方、「特にない」は 34.9%である。

図表 I-55 日常生活や社会参加で妨げになっていること



回答者数=899人

障害の種類別にみると、「特にない」という回答以外では、内部障害を除くすべての障害種類で「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」が第1位となっている。

視覚障害では「道路や駅などの表示が分かりづらい」が24.1%、「経済的な不安」が19.3%、「人ごみに入ることができない」が26.5%と、他の障害種類より割合が高くなっている。

図表 I-5 6 日常生活や社会参加で妨げになっていること（障害の種類別）

		回答者数 人	電車やバスなどを使っての移動がしづらい	道路や建物内での移動がしづらい	経済的な不安	人ごみに入ることができない	周りの人の障害者に対する理解不足	一緒に行く仲間がいない	介助者がいない
全体		899	22.8	14.8	14.8	13.6	10.7	7.9	6.7
障害の種類別	視覚障害	83	30.1	27.7	19.3	26.5	14.5	9.6	9.6
	聴覚・平衡機能障害	116	19.0	8.6	12.1	10.3	14.7	13.8	13.8
	言語障害	41	22.0	19.5	14.6	17.1	9.8	2.4	7.3
	肢体不自由	392	27.8	19.6	13.0	16.1	11.5	8.2	7.9
	内部障害	291	17.9	10.7	18.6	10.7	8.2	7.6	5.2

		回答者数 人	適切な相談相手がない	道路や駅などの表示が分かりづらい	情報が無い	障害や病気を理由に施設などの利用を拒否される	その他	特にない	無回答
全体		899	6.0	5.3	5.2	1.6	6.3	34.9	6.6
障害の種類別	視覚障害	83	6.0	24.1	6.0	1.2	3.6	15.7	7.2
	聴覚・平衡機能障害	116	11.2	6.9	12.1	3.4	8.6	36.2	4.3
	言語障害	41	4.9	4.9	2.4	0.0	17.1	34.1	2.4
	肢体不自由	392	4.6	3.3	3.8	2.3	6.9	32.9	6.6
	内部障害	291	6.2	3.1	6.5	0.7	5.8	38.8	4.5

単位：%

障害の程度別にみると、2級において「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」「人ごみに入ることができない」が、他の障害程度より高い割合となっている。5級、6級では「周りの人の障害者に対する理解不足」が高い割合となっている。

図表 I-57 日常生活や社会参加で妨げになっていること（障害の程度別）

		回答者数 人	電車やバスなどを使っての移動がしづらい	道路や建物内での移動がしづらい	経済的な不安	人ごみに入ることができない	周りの人の障害者に対する理解不足	一緒に行く仲間がいない	介助者がいない
全体		899	22.8	14.8	14.8	13.6	10.7	7.9	6.7
障害の程度別	1級	321	23.1	16.5	14.6	12.5	11.5	6.5	7.5
	2級	131	30.5	20.6	16.0	22.1	11.5	11.5	9.9
	3級	136	18.4	10.3	15.4	16.2	8.8	5.9	6.6
	4級	199	21.1	11.6	16.1	8.5	7.0	9.0	3.5
	5級	44	20.5	20.5	11.4	18.2	18.2	6.8	2.3
	6級	45	26.7	8.9	11.1	13.3	17.8	13.3	11.1

		回答者数 人	適切な相談相手がない	道路や駅などの表示が分かりづらい	情報が無い	障害や病気を理由に施設などの利用を拒否される	その他	特になし	無回答
全体		899	6.0	5.3	5.2	1.6	6.3	34.9	6.6
障害の程度別	1級	321	3.7	5.3	4.7	1.2	6.5	35.2	5.6
	2級	131	9.2	8.4	6.1	3.1	9.2	21.4	6.9
	3級	136	3.7	2.9	5.1	1.5	6.6	41.2	5.9
	4級	199	10.1	4.0	5.5	1.0	5.0	38.7	7.0
	5級	44	4.5	4.5	4.5	0.0	2.3	36.4	9.1
	6級	45	6.7	11.1	8.9	2.2	6.7	31.1	4.4

単位：%

年代別にみると、すべての年代で「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」が高い割合となっている。就学期（5～17歳）、青年期（18～39歳）では「周りの人の障害者に対する理解不足」が、青年期（18～39歳）、壮年期（40～64歳）では「経済的な不安」が、他の年代より高い割合となっている。

図表 I-58 日常生活や社会参加で妨げになっていること（年代別）

		回答者数 人	電車やバスなどを使っての移動がしづらい	道路や建物内での移動がしづらい	経済的な不安	人ごみに入ることができない	周りの人の障害者に対する理解不足	一緒に行く仲間がいない	介助者がいない
全体		899	22.8	14.8	14.8	13.6	10.7	7.9	6.7
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	36.8	31.6	5.3	10.5	47.4	10.5	5.3
	青年期（18～39歳）	31	25.8	12.9	22.6	12.9	32.3	22.6	12.9
	壮年期（40～64歳）	192	22.4	16.7	22.9	16.7	17.2	7.3	3.6
	高齢期（65歳以上）	546	23.3	12.6	11.7	13.0	5.9	7.5	7.0

		回答者数 人	適切な相談相手がない	道路や駅などの表示が分かりづらい	情報が無い	障害や病気を理由に施設などの利用を拒否される	その他	特になし	無回答
全体		899	6.0	5.3	5.2	1.6	6.3	34.9	6.6
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	10.5	10.5	0.0	5.3	15.8	21.1	0.0
	青年期（18～39歳）	31	9.7	12.9	6.5	6.5	0.0	12.9	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	8.9	5.7	7.3	2.1	8.9	31.3	3.6
	高齢期（65歳以上）	546	5.3	4.2	4.9	0.4	6.6	37.4	7.9

単位：％

10. 地震などの災害について

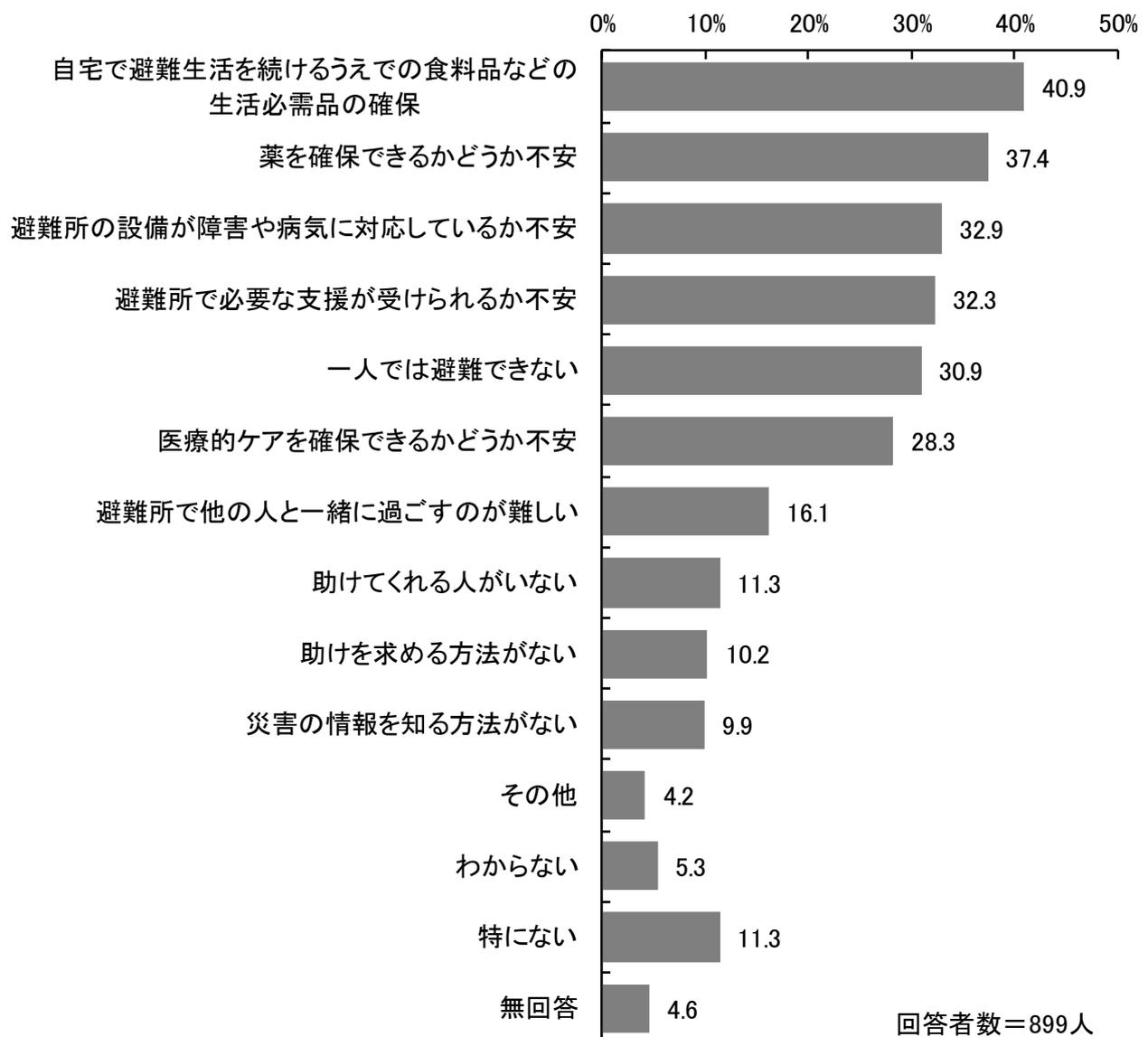
(1) 災害が発生したときに困ることや不安なこと

問 29 地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

災害が発生したときに困ることや不安なことは、「自宅で避難生活をするうえでの食料品などの生活必需品の確保」が40.9%で最も高く、次いで「薬を確保できるかどうか不安」37.4%、「避難所の設備が障害や病気に対応しているか不安」32.9%となっている。

図表 I-59 災害が発生したときに困ることや不安なこと



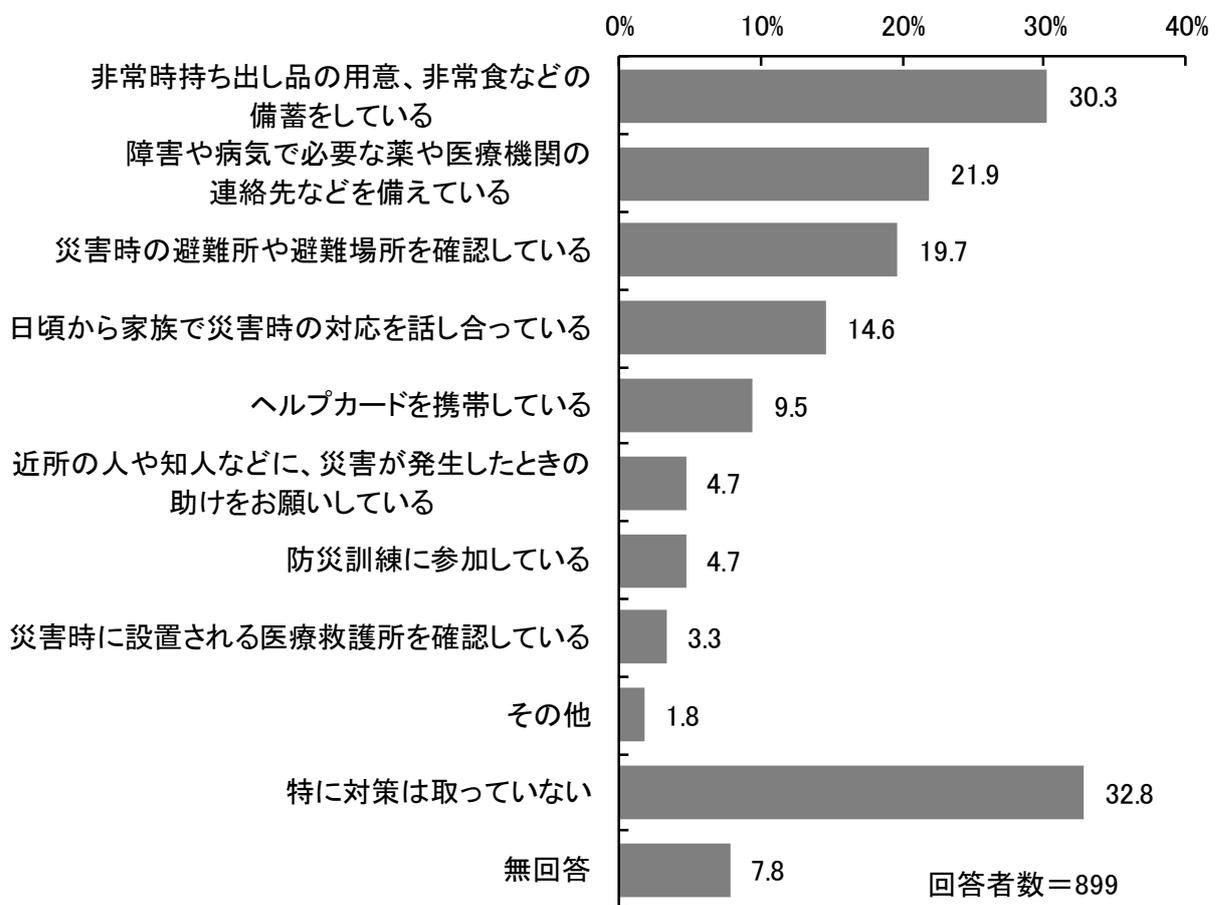
(2) 災害に対して備えていること

問 30 災害に対してどのような備えをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

災害に対して備えていることは、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」が30.3%で最も高く、次いで「障害や病気で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」21.9%、「災害時の避難所や避難場所を確認している」19.7%となっている。

一方、「特に対策は取っていない」は32.8%である。

図表 I-60 災害に対して備えていること



1.1. 日常や今後の暮らしについて

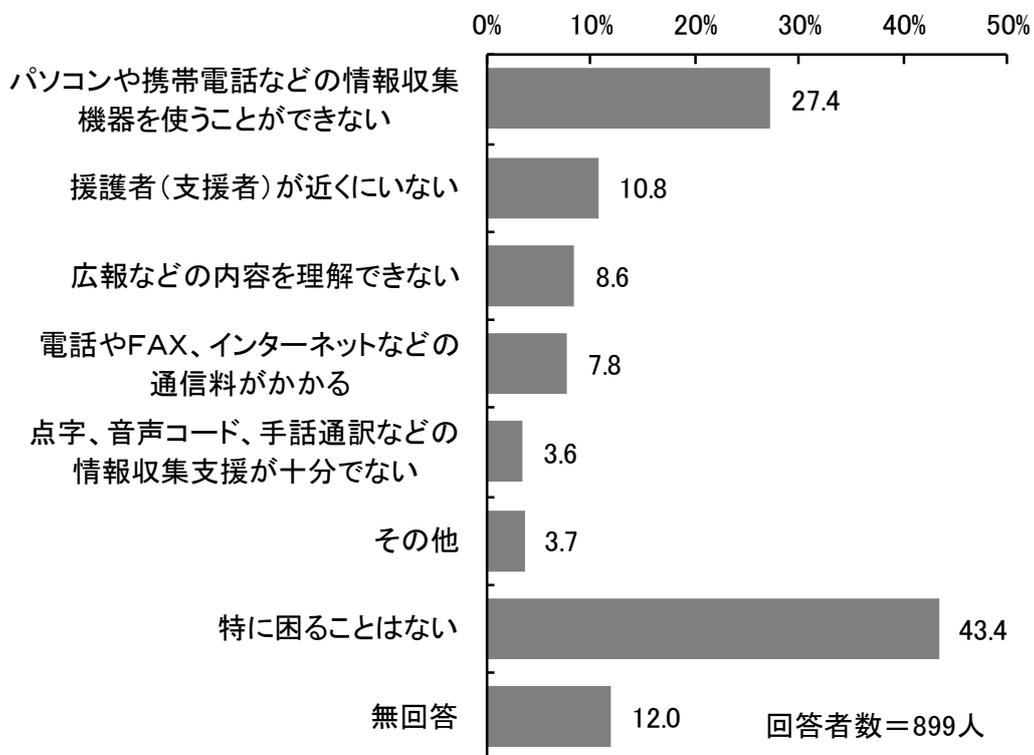
(1) 生活に必要な情報を集めるときに困ること

問 31 生活に必要な情報を集めるときに困ることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

生活に必要な情報を集めるときに困ることは、「パソコンや携帯電話などの情報収集機器を使うことができない」が27.4%となっている。次いで「援護者(支援者)が近くにいない」10.8%、「広報などの内容を理解できない」8.6%となっている。

一方、「特に困ることはない」は43.4%である。

図表 I-6 1 生活に必要な情報を集めるときに困ること



障害の種類別にみると、「特に困ることはない」という回答以外では、すべての障害種類で「パソコンや携帯電話などの情報収集機器を使うことができない」が第1位となっている。また、聴覚・平衡機能障害では「点字、音声コード、手話通訳などの情報収集支援が十分でない」が19.0%、言語障害で「広報などの内容を理解できない」19.5%と、他の障害種類より割合が高くなっている。

年代別にみると、高齢期（65歳以上）で「パソコンや携帯電話などの情報収集機器を使うことができない」が34.1%、青年期（18～39歳）で「広報などの内容を理解できない」が22.6%と、他の年代より割合が高くなっている。

図表 I-6 2 生活に必要な情報を集めるときに困ること
(障害の種類別/障害の程度別/年代別)

		回答者数 人	パソコンや携帯電話などの情報収集機器を使うことができない	介護者・支援者が近くにいない	広報などの内容を理解できない	電話やFAX、インターネットなどの通信料がかかる	点字・音声コード・手話通訳などの情報収集支援が十分でない	その他	特に困ることはない	無回答
全体		899	27.4	10.8	8.6	7.8	3.6	3.7	43.4	12.0
障害の種類別	視覚障害	83	31.3	15.7	13.3	13.3	10.8	7.2	32.5	12.0
	聴覚・平衡機能障害	116	29.3	14.7	10.3	11.2	19.0	6.0	28.4	14.7
	言語障害	41	36.6	7.3	19.5	14.6	4.9	9.8	41.5	7.3
	肢体不自由	392	28.1	9.2	8.7	7.4	0.3	3.8	44.1	12.8
	内部障害	291	26.8	13.1	6.9	6.5	1.4	2.4	48.5	8.2
障害の程度別	1級	321	27.7	11.8	9.7	7.2	3.7	3.1	44.9	12.8
	2級	131	35.9	9.9	7.6	7.6	9.9	6.1	35.1	7.6
	3級	136	16.2	7.4	8.1	6.6	1.5	2.9	57.4	10.3
	4級	199	28.1	12.6	8.5	9.5	0.5	3.0	41.2	11.1
	5級	44	27.3	9.1	2.3	9.1	0.0	4.5	38.6	15.9
	6級	45	26.7	11.1	13.3	8.9	8.9	6.7	35.6	15.6
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	5.3	0.0	15.8	5.3	15.8	10.5	63.2	0.0
	青年期（18～39歳）	31	19.4	9.7	22.6	6.5	12.9	0.0	54.8	3.2
	壮年期（40～64歳）	192	10.9	10.4	4.7	12.0	3.1	5.2	57.8	7.3
	高齢期（65歳以上）	546	34.1	11.9	8.8	6.4	2.6	3.1	37.4	13.7

単位：%

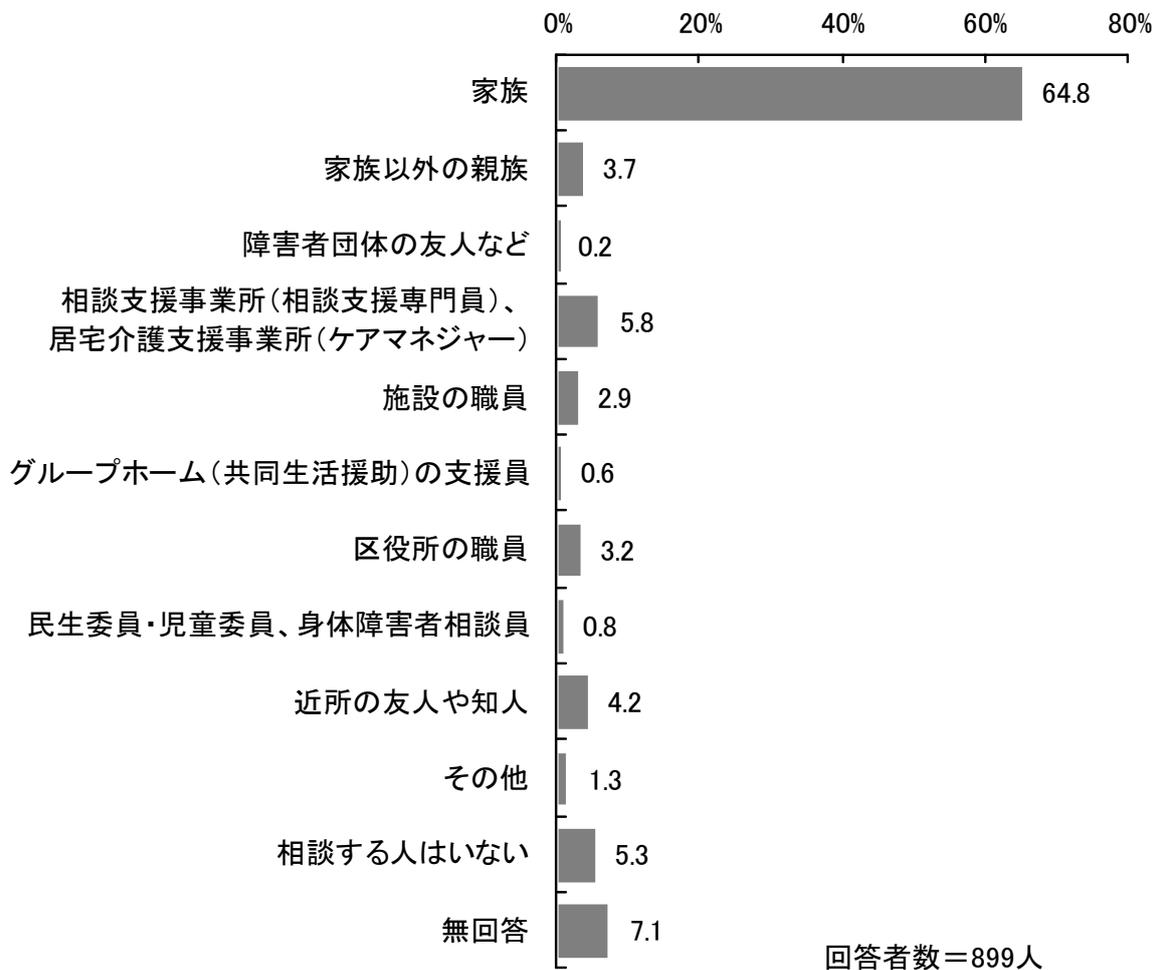
(2) 困ったことがある場合の相談相手

問 32 何か困ったことがある場合、相談する人はだれですか。

(○は主な相談者に1つだけ)

困ったことがある場合の相談相手は、「家族」が64.8%で最も高く、次いで「相談支援事業所（相談支援専門員）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」5.8%となっている。

図表 I-6 3 困ったことがある場合の相談相手



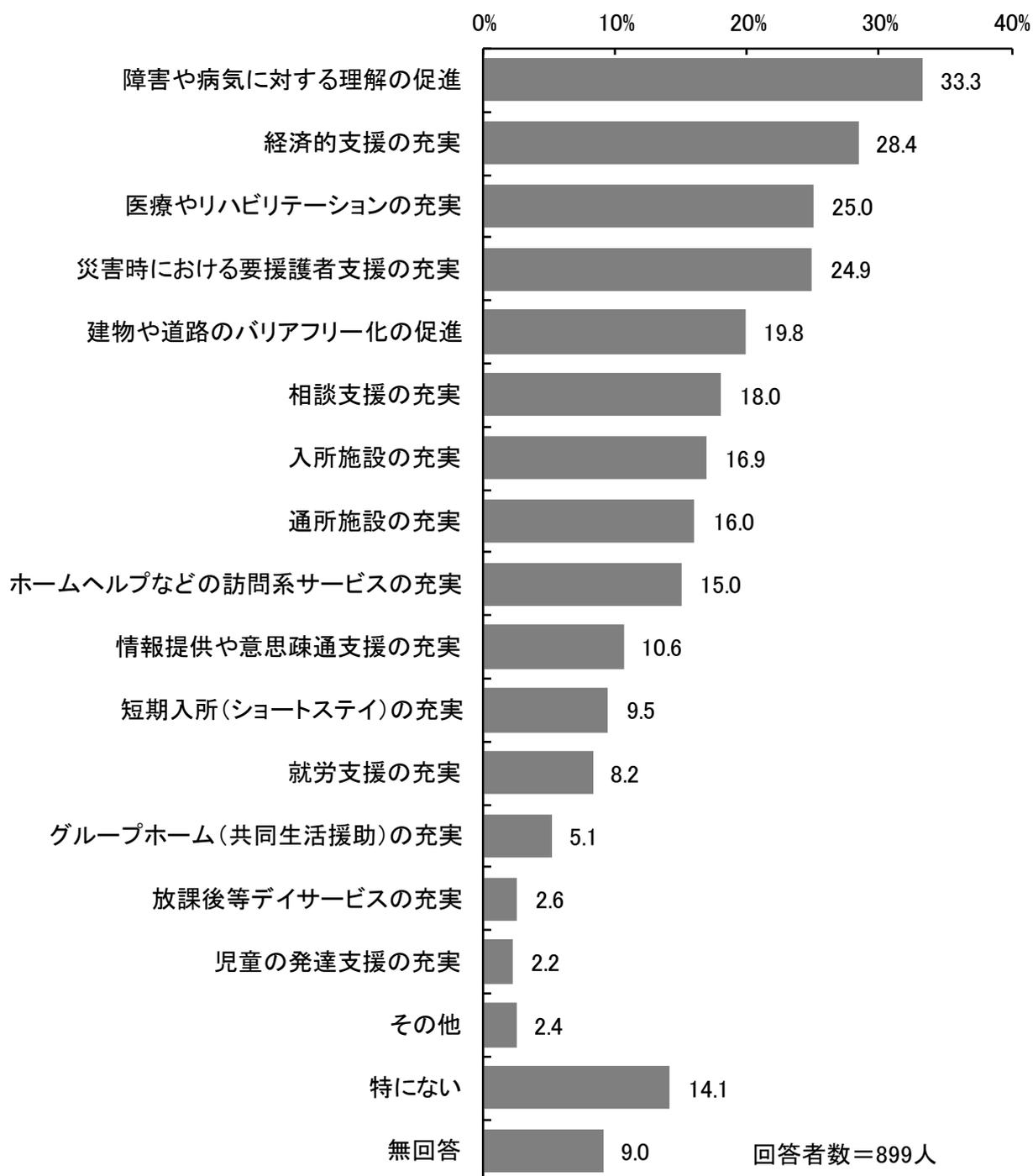
(3) 地域で安心して暮らしていくために重要なこと

問 33 地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「障害や病気に対する理解の促進」が33.3%で最も高く、次いで「経済的支援の充実」28.4%、「医療やリハビリテーションの充実」25.0%となっている。

図表 I-6 4 地域で安心して暮らしていくために重要なこと



障害の種類別にみると、視覚障害では「障害や病気に対する理解の促進」「経済的支援の充実」が、視覚障害を除くすべての障害の種類では「障害や病気に対する理解の促進」の割合が第1位となっている。次いで第2位をみると、内部障害では「経済的支援の充実」、聴覚・平衡機能障害では「災害時における要援護者支援の充実」、言語障害と肢体不自由では「医療やリハビリテーションの充実」となっている。

図表 I-65 地域で安心して暮らしていくために重要なこと（障害の種類別）

		回答者数 人	障害や病気に対する理解の促進	経済的支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	災害時における要援護者支援の充実	建物や道路のバリアフリー化の促進	相談支援の充実	入所施設の充実	通所施設の充実	ホームヘルプなどの訪問系サービスの充実
全体		899	33.3	28.4	25.0	24.9	19.8	18.0	16.9	16.0	15.0
障害の種類別	視覚障害	83	27.7	27.7	24.1	26.5	25.3	15.7	24.1	13.3	15.7
	聴覚・平衡機能障害	116	44.0	30.2	20.7	31.0	16.4	15.5	13.8	19.8	13.8
	言語障害	41	41.5	29.3	34.1	29.3	19.5	19.5	22.0	24.4	14.6
	肢体不自由	392	33.7	29.1	32.4	27.8	27.3	20.7	21.7	21.4	18.6
	内部障害	291	33.0	28.5	22.7	20.3	15.5	17.5	11.7	14.4	12.0

		回答者数 人	情報提供や意思疎通支援の充実	短期入所ショートステイの充実	就労支援の充実	グループホーム共同生活援助の充実	放課後等デイサービスの充実	児童の発達支援の充実	その他	特になし	無回答
全体		899	10.6	9.5	8.2	5.1	2.6	2.2	2.4	14.1	9.0
障害の種類別	視覚障害	83	10.8	13.3	7.2	4.8	2.4	2.4	2.4	9.6	12.0
	聴覚・平衡機能障害	116	19.0	8.6	10.3	5.2	0.9	2.6	4.3	10.3	12.1
	言語障害	41	17.1	9.8	14.6	12.2	7.3	4.9	9.8	14.6	4.9
	肢体不自由	392	7.9	12.2	7.9	5.4	4.1	2.3	2.3	12.2	6.9
	内部障害	291	9.6	6.5	7.6	3.4	1.7	2.4	3.4	16.2	7.9

単位：%

障害の程度別にみると、3級以外の障害の程度で「障害や病気に対する理解の促進」の割合が第1位となっている。3級では「経済的支援の充実」が第1位となっている。

図表 I-66 地域で安心して暮らしていくために重要なこと（障害の程度別）

		回答者数人	障害や病気に対する理解の促進	経済的支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	災害時における要援護者支援の充実	建物や道路のバリアフリー化の促進	相談支援の充実	入所施設の充実	通所施設の充実	ホームヘルプなどの訪問系サービスの充実
全体		899	33.3	28.4	25.0	24.9	19.8	18.0	16.9	16.0	15.0
障害の程度別	1級	321	33.0	28.0	26.5	26.5	19.3	16.2	17.4	17.1	15.3
	2級	131	42.7	26.7	31.3	25.2	26.7	18.3	15.3	17.6	17.6
	3級	136	26.5	27.9	25.7	23.5	19.9	20.6	16.9	14.0	11.8
	4級	199	33.7	32.2	20.6	24.6	17.1	19.6	16.6	13.6	14.6
	5級	44	31.8	25.0	15.9	20.5	20.5	20.5	6.8	9.1	18.2
	6級	45	37.8	26.7	26.7	31.1	20.0	17.8	26.7	28.9	15.6

		回答者数人	情報提供や意思疎通支援の充実	短期入所ショートステイの充実	就労支援の充実	グループホーム 共同生活援助の充実	放課後等デイサービスの充実	児童の発達支援の充実	その他	特にない	無回答
全体		899	10.6	9.5	8.2	5.1	2.6	2.2	2.4	14.1	9.0
障害の程度別	1級	321	8.4	11.2	7.8	5.0	2.8	2.5	3.7	14.6	8.7
	2級	131	11.5	12.2	9.2	4.6	3.1	2.3	2.3	8.4	6.9
	3級	136	15.4	11.8	10.3	7.4	1.5	2.9	0.7	18.4	6.6
	4級	199	11.1	4.0	5.5	3.5	2.5	1.5	2.0	14.1	8.5
	5級	44	2.3	2.3	11.4	2.3	4.5	2.3	0.0	11.4	13.6
	6級	45	17.8	15.6	13.3	11.1	2.2	2.2	4.4	15.6	13.3

単位：%

年代別にみると、すべての年代で「障害や病気に対する理解の促進」の割合が第1位となっている。特に就学期（5～17歳）では、84.2%と割合が高くなっている。次いで第2位をみると、就学期（5～17歳）では「建物や道路のバリアフリー化の促進」、青年期（18～39歳）、壮年期（40～64歳）では「経済的支援の充実」、高齢期（65歳以上）では「医療やリハビリテーションの充実」となっている。

図表 I-67 地域で安心して暮らしていくために重要なこと（年代別）

		回答者数 人	障害や病気に対する理解の促進	経済的支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	災害時における要援護者支援の充実	建物や道路のバリアフリー化の促進	相談支援の充実	入所施設の充実	通所施設の充実	ホームヘルプなどの訪問系サービスの充実
全体		899	33.3	28.4	25.0	24.9	19.8	18.0	16.9	16.0	15.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	84.2	31.6	36.8	31.6	47.4	31.6	21.1	42.1	21.1
	青年期（18～39歳）	31	64.5	51.6	35.5	29.0	29.0	35.5	25.8	38.7	16.1
	壮年期（40～64歳）	192	38.0	37.5	26.0	25.0	22.9	22.4	9.9	14.1	9.9
	高齢期（65歳以上）	546	29.1	23.3	24.7	24.4	17.9	15.2	19.8	15.9	17.8

		回答者数 人	情報提供や意思疎通支援の充実	短期入所ショートステイの充実	就労支援の充実	グループホーム 共同生活援助の充実	放課後等デイサービスの充実	児童の発達支援の充実	その他	特になし	無回答
全体		899	10.6	9.5	8.2	5.1	2.6	2.2	2.4	14.1	9.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	26.3	21.1	31.6	10.5	36.8	21.1	5.3	5.3	0.0
	青年期（18～39歳）	31	19.4	35.5	12.9	9.7	3.2	3.2	6.5	3.2	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	15.1	7.3	21.4	5.2	3.1	4.2	4.2	12.5	5.2
	高齢期（65歳以上）	546	7.9	9.0	2.4	4.9	1.1	1.1	2.0	14.8	10.3

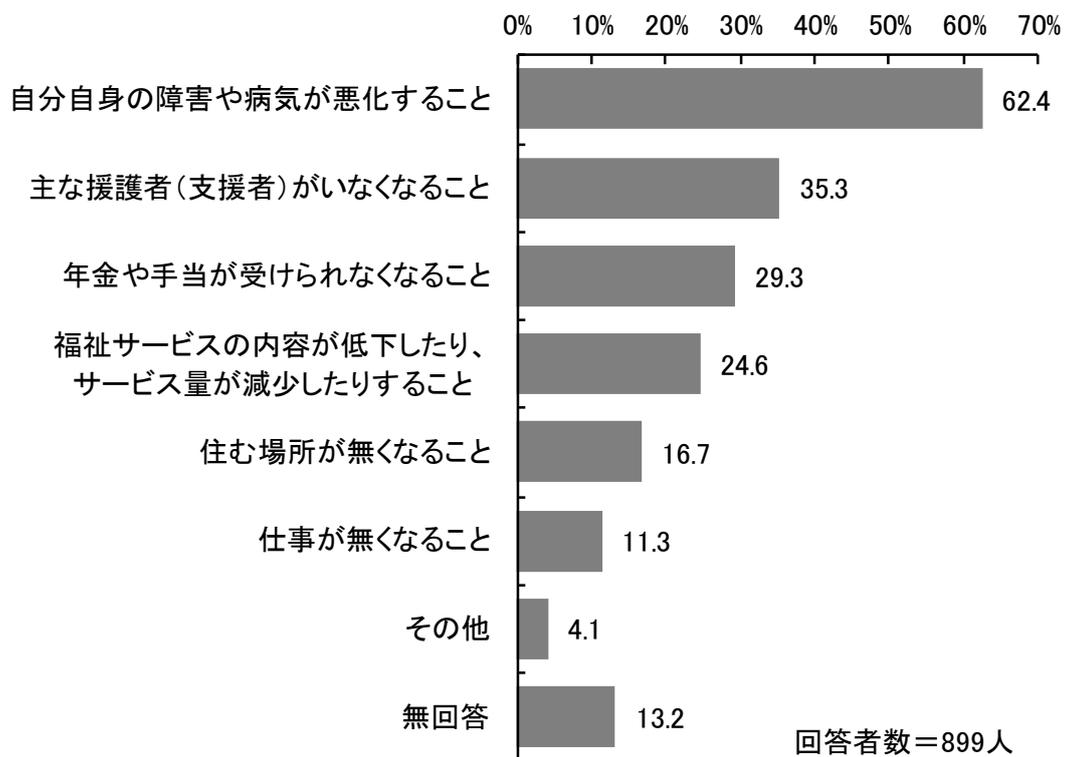
単位：%

(4) 将来不安なこと

問 34 将来、不安なことは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

将来不安なことは、「自分自身の障害や病気が悪化すること」が62.4%で最も高く、次いで「主な援護者(支援者)がいなくなること」35.3%、「年金や手当が受けられなくなること」29.3%となっている。

図表 I-68 将来不安なこと



障害の種類別にみると、すべての障害種類で第1位は「自分自身の障害や病気が悪化すること」、第2位は「主な援護者（支援者）がいなくなること」となっている。

年代別にみても、すべての年代で「自分自身の障害や病気が悪化すること」「主な援護者（支援者）がいなくなること」の割合が第1位、第2位となっている。

図表 I-69 将来不安なこと（障害の種類別/障害の程度別/年代別）

		回答者数人	自分自身の障害や病気が悪化すること	主な援護者 支援者がいなくなること	年金や手当が受けられなくなること	福祉サービスの内容が低下したりサービス量が減少したりすること	住む場所が無くなること	仕事が無くなること	その他	無回答
全体		899	62.4	35.3	29.3	24.6	16.7	11.3	4.1	13.2
障害の種類別	視覚障害	83	59.0	43.4	28.9	28.9	20.5	9.6	3.6	18.1
	聴覚・平衡機能障害	116	50.9	38.8	37.9	22.4	21.6	14.7	6.0	14.7
	言語障害	41	68.3	36.6	34.1	22.0	22.0	9.8	9.8	17.1
	肢体不自由	392	64.8	37.0	29.3	26.5	15.8	10.5	2.0	12.0
	内部障害	291	68.7	35.1	30.2	25.1	15.1	12.0	5.5	10.7
障害の程度別	1級	321	65.1	38.6	28.7	27.7	15.9	10.3	3.7	12.1
	2級	131	56.5	46.6	32.1	23.7	20.6	11.5	4.6	15.3
	3級	136	60.3	30.1	26.5	21.3	14.0	8.1	2.9	16.2
	4級	199	61.8	27.6	30.2	21.1	17.1	13.6	6.0	11.6
	5級	44	70.5	29.5	25.0	22.7	13.6	15.9	2.3	11.4
	6級	45	57.8	40.0	33.3	37.8	20.0	20.0	4.4	13.3
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	68.4	68.4	21.1	36.8	21.1	5.3	0.0	5.3
	青年期（18～39歳）	31	67.7	58.1	41.9	51.6	29.0	25.8	9.7	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	60.4	39.1	36.5	24.0	22.9	27.1	5.2	13.0
	高齢期（65歳以上）	546	64.7	31.0	25.8	22.2	13.7	4.6	3.8	13.4

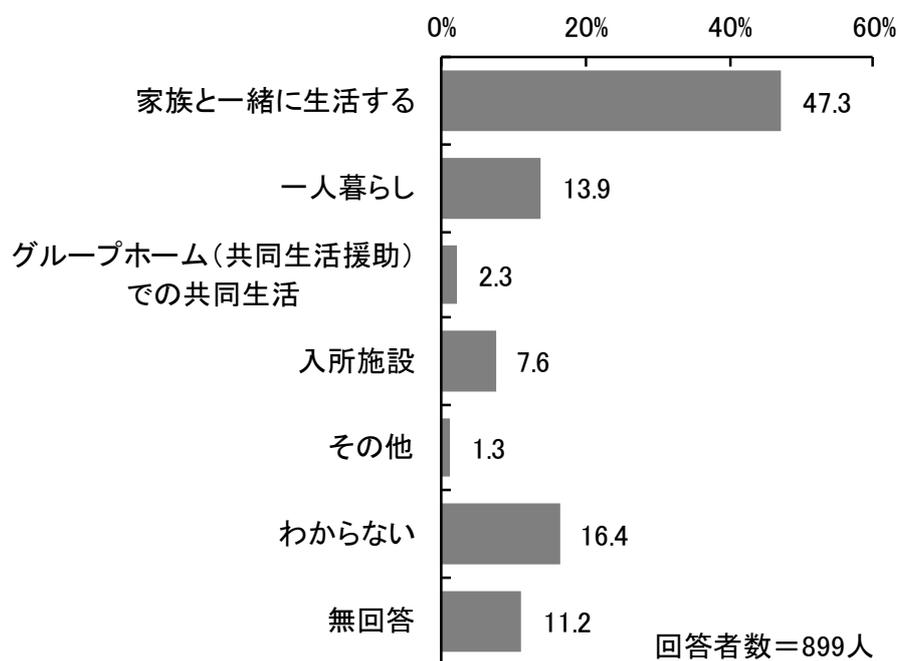
単位：%

(5) 将来望む暮らし方

問 35 将来はどのような暮らし方を望んでいますか。(〇は1つだけ)

将来望む暮らし方は、「家族と一緒に生活する」が47.3%で半数近くを占めている。次いで「一人暮らし」13.9%、「入所施設」7.6%となっている。
一方、「わからない」は16.4%である。

図表 I-70 将来望む暮らし方



障害の種類別でみると、すべての障害種類で「家族と一緒に生活する」が第1位となっている。言語障害では「一人暮らし」が29.3%と、他の障害種類より高くなっている。

年代別にみても、すべての年代で「家族と一緒に生活する」が第1位となっている。青年期（18～39歳）では「入所施設」が19.4%と、他の年代より高くなっている。

図表 I-7 1 将来望む暮らし方（障害の種類別/障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	家族と一緒に生活する	一人暮らし	グループホーム 共同生活 活援助での共同生活	入所施設	その他	わからない	無回答
全体		899	47.3	13.9	2.3	7.6	1.3	16.4	11.2
障害の種類別	視覚障害	83	37.3	13.3	1.2	12.0	1.2	19.3	15.7
	聴覚・平衡機能障害	116	38.8	15.5	3.4	6.0	2.6	20.7	12.9
	言語障害	41	46.3	29.3	0.0	4.9	0.0	12.2	7.3
	肢体不自由	392	46.7	13.3	2.0	11.0	1.3	15.1	10.7
	内部障害	291	52.9	14.1	2.1	5.2	1.0	15.8	8.9
障害の程度別	1級	321	52.6	10.6	1.9	8.7	0.6	15.9	9.7
	2級	131	44.3	13.0	5.3	6.1	1.5	15.3	14.5
	3級	136	47.8	12.5	0.0	8.1	0.0	19.9	11.8
	4級	199	42.2	20.1	1.0	7.0	1.5	18.1	10.1
	5級	44	50.0	11.4	0.0	9.1	6.8	9.1	13.6
	6級	45	40.0	22.2	8.9	2.2	4.4	13.3	8.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	57.9	5.3	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3
	青年期（18～39歳）	31	45.2	16.1	3.2	19.4	3.2	12.9	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	47.4	16.7	0.5	1.6	2.1	20.3	11.5
	高齢期（65歳以上）	546	47.1	13.7	2.4	9.5	1.1	15.2	11.0

単位：%

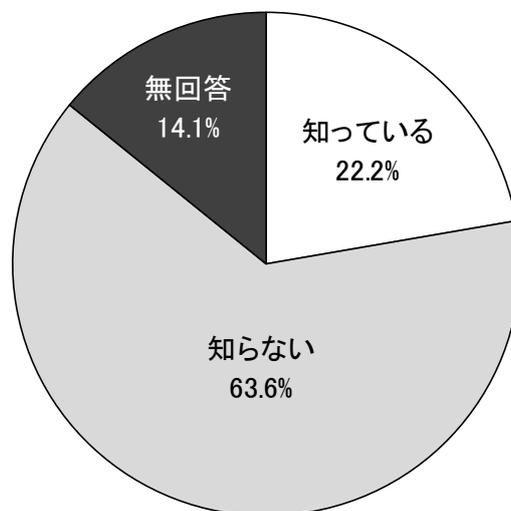
12. 虐待防止、差別解消について

(1) 区の虐待対応窓口の認知

問36 養護者や通所先の施設職員、勤め先の職員などから虐待を受けた場合に、区役所に対応窓口があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

区の虐待対応窓口の認知は、「知っている」が22.2%、「知らない」が63.6%となっている。

図表 I-7 2 区の虐待対応窓口の認知



回答者数=899人

年代別にみると、就学期（5～17歳）は「知らない」が73.7%と、他の年代より高くなっている。

図表 I-7 3 区の虐待対応窓口の認知
（障害の種類別/障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	知っている	知らない	無回答
全体		899	22.2	63.6	14.1
障害の種類別	視覚障害	83	13.3	72.3	14.5
	聴覚・平衡機能障害	116	24.1	62.9	12.9
	言語障害	41	31.7	61.0	7.3
	肢体不自由	392	25.0	61.7	13.3
	内部障害	291	18.9	69.1	12.0
障害の程度別	1級	321	23.1	65.1	11.8
	2級	131	26.0	57.3	16.8
	3級	136	19.1	66.2	14.7
	4級	199	25.6	62.3	12.1
	5級	44	11.4	75.0	13.6
	6級	45	22.2	57.8	20.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	21.1	73.7	5.3
	青年期（18～39歳）	31	32.3	67.7	0.0
	壮年期（40～64歳）	192	20.8	63.5	15.6
	高齢期（65歳以上）	546	22.7	64.3	13.0

単位：%

(2) 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無

問 37 過去1年間に、障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことはありましたか。(〇は1つだけ)

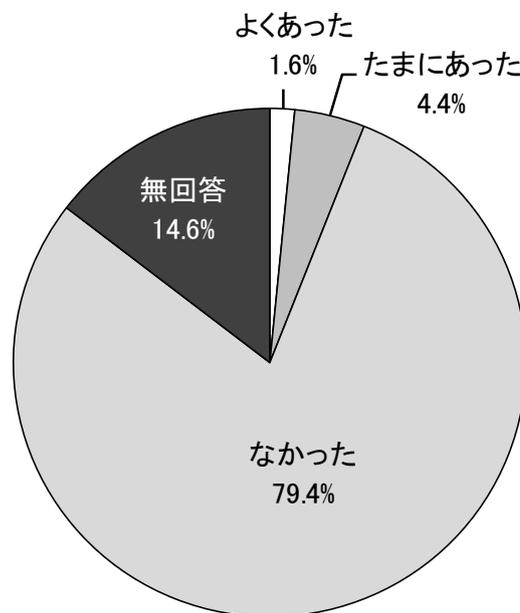
★ 問37-①は、問37で「1.よくあった」「2.たまにあった」のいずれかに〇をした方

問37-① それは具体的にどのようなことでしたか。

過去1年間に、障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無は、「たまにあった」が4.4%、「よくあった」が1.6%となっている。

一方、「なかった」は79.4%である。

図表 I-7 4 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無



回答者数=899人

障害の種類別で見ると、聴覚・平衡機能障害は『あった』（「よくあった」＋「たまにあった」）が17.3%と、他の障害種類より高くなっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）は『あった』（「よくあった」＋「たまにあった」）が16.1%、就学期（5～17歳）では「よくあった」が10.5%と、他の年代より高くなっている。

図表 I-75 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無
（障害の種類別/障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	よく あ た	た ま に あ た	な か た	無 回 答	『あ っ た』
全 体		899	1.6	4.4	79.4	14.6	6.0
障害の 種類別	視覚障害	83	1.2	6.0	75.9	16.9	7.2
	聴覚・平衡機能障害	116	5.2	12.1	69.8	12.9	17.3
	言語障害	41	0.0	7.3	85.4	7.3	7.3
	肢体不自由	392	1.8	4.8	79.6	13.8	6.6
	内部障害	291	0.3	3.1	84.2	12.4	3.4
障害の 程度別	1級	321	1.2	4.0	81.6	13.1	5.2
	2級	131	3.1	6.9	73.3	16.8	10.0
	3級	136	2.2	2.9	81.6	13.2	5.1
	4級	199	0.0	4.0	82.4	13.6	4.0
	5級	44	2.3	0.0	86.4	11.4	2.3
	6級	45	4.4	8.9	73.3	13.3	13.3
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	10.5	5.3	78.9	5.3	15.8
	青年期（18～39歳）	31	0.0	16.1	83.9	0.0	16.1
	壮年期（40～64歳）	192	3.1	6.3	76.6	14.1	9.4
	高齢期（65歳以上）	546	0.9	2.7	81.7	14.7	3.6

単位：%

『あった』＝「よくあった」＋「たまにあった」

以下は、『障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じた』具体的内容(総数 44 件)の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①周囲の無理解(13 件)

- 金融機関に代筆を拒否される。
- 車の教習所で聞こえないことで差別を受けた。
- 電車などの乗り物で邪魔のようにされたことがある。
- 内部障害で見た目では障害がわかりづらいため、本当に障害者か?と言われてしまう。人工肛門のため、身障者用トイレを利用する際、よく注意される。
- 民間バスで、赤い十字マークを持っているが、席を譲ってくれなかった。
- 電車の乗り降りでスロープをお願いしたが拒否された。

②医療機関や施設において(8件)

- 障害があり、体も大きくなり力も強くなってきたので耳鼻科で診られない、と言われた。
- リハビリ型デイの入会拒否。

③職場において(5件)

- 仕事時間の制約があるため、手当や賞与の減額。
- 就職が内定していたけれども、身体障害者ということで内定を取り消された。

④暴言、暴力、いやがらせ(5件)

- 「～ができない」と言われた。

⑤その他(13 件)

- 歩道のバリアフリー (凸凹が多い)。
- 葛飾区は障害者手当が 4 級だけではもらえない。別の区では支給あり。
- 学校でも福祉施設でも「医療的ケアがある」ということで、同じように扱ってもらえないことはたまにある。安全面を考慮すると、ある程度は仕方ないのは理解できるが、度が過ぎると感じることも多い。親の付き添い問題など。

(3) 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無

問 38 過去1年間に、日常生活や社会生活を送るうえで、生活しづらい原因を取り除いてもらったことはありましたか。(○は1つだけ)

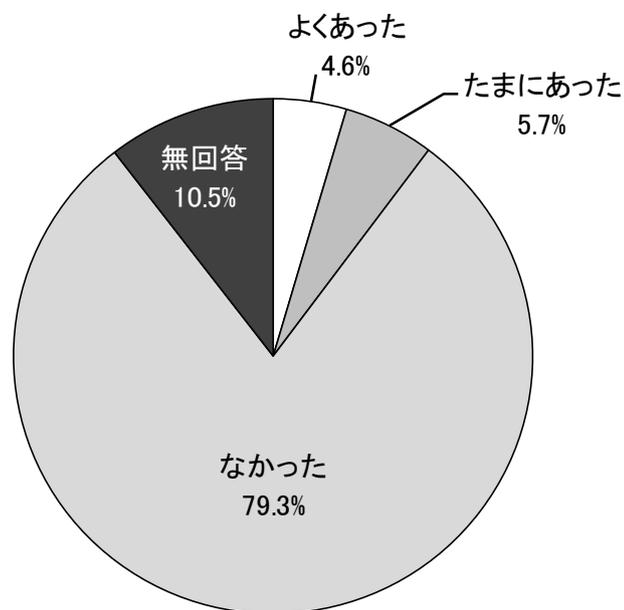
★ 問 38-①は、問 38で「1.よくあった」「2.たまにあった」のいずれかに○をした方

問 38-① それは具体的にどのようなことでしたか。

生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無は、「たまにあった」が5.7%、「よくあった」が4.6%となっている。

一方、「なかった」は79.3%である。

図表 I-76 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無



回答者数=899人

障害の種類別で見ると、言語障害は『あった』（「よくあった」+「たまにあった」）が21.9%と、他の障害種類より高くなっている。

年代別にみると、青年期（18～39歳）で『あった』（「よくあった」+「たまにあった」）が12.9%と、他の年代より高くなっている。

図表 I-77 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無
（障害の種類別/障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	よく あった	たま にあった	な か た	無 回 答	『あ っ た』
全 体		899	4.6	5.7	79.3	10.5	10.3
障害の 種類別	視覚障害	83	2.4	4.8	85.5	7.2	7.2
	聴覚・平衡機能障害	116	6.9	10.3	74.1	8.6	17.2
	言語障害	41	7.3	14.6	73.2	4.9	21.9
	肢体不自由	392	5.1	7.4	77.3	10.2	12.5
	内部障害	291	3.1	4.1	85.2	7.6	7.2
障害の 程度別	1級	321	2.5	5.3	84.1	8.1	7.8
	2級	131	6.9	9.9	73.3	9.9	16.8
	3級	136	7.4	2.2	80.1	10.3	9.6
	4級	199	4.0	4.5	79.9	11.6	8.5
	5級	44	2.3	9.1	79.5	9.1	11.4
	6級	45	8.9	8.9	64.4	17.8	17.8
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	19	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	青年期（18～39歳）	31	3.2	9.7	74.2	12.9	12.9
	壮年期（40～64歳）	192	4.2	6.8	80.7	8.3	11.0
	高齢期（65歳以上）	546	5.3	4.8	79.1	10.8	10.1

単位：%

『あった』＝「よくあった」+「たまにあった」

以下は、『生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じた』具体的内容（総数 74 件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①生活や暮らしやすさ(30 件)

- 都営住宅でエレベーターを設置してもらった。
- 車いす、カート（家庭内のもの）の借り入れ。施設での入浴。
- 福祉用具の設置により移動が楽になったこと。介護の訪問サービス内容が充実してきたこと。病状に応じて薬を替えてもらい、体調が安定してきたこと。
- 胃ろうでの食事であり、周りの人と一緒に食事ができないため、分けて食事をしてもらっている。

②施設や専門職からの支援(16 件)

- ケースワーカーの人が、身体に関する補助具等、相談に答えてくれた。
- 自傷や他害（毛をひっぱる、抜いた毛を食べてしまう）の時に、デイサービスで否定せずに見守ってもらったこと。
- 往診先を変えてもらった。

③家族や周囲の理解(8件)

- 体操仲間が常に気づかってくれた。
- 家族や区の職員などによる手助け。分からないことなどを教えてくれた。
- オンラインミーティングへの不参加を認めてもらったり、文字起こしをしてもらった。

④経済的な支援(4件)

- 調理器や空気清浄機購入時の補助。
- 保険料が 1 割になり、医者に多くかかっているのを、助かった。

⑤移動手段や交通機関(3件)

- 乗り物に乗った際、席をあけていただいたこと。

⑥その他(13 件)

- 具体的にはわからないが車いす生活なので、気づいていないところで多くのサポートを受けていると思う。

13. 自由意見

最後に、区の福祉施策などについて、ご意見やご要望をお願いします。

以下は、区の福祉施策などについてのご意見やご要望（総数 242 件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①経済的支援・補助等について(36 件)

- 重複障害者の生活支援補助。
- 障害児に対してもっと手厚い援助をお願いしたい。
- 支援や介護度を持っていない高齢者のオムツやパッドの支援をしてほしい。
- 医療費の無償化、障害福祉手当の充実化。
- 車いす利用のため、タクシー代が高額になっている。実績に基づき、何割かでも経済的支援があると助かる。
- 障害者手当、マル障などに、所得制限をかけないでほしい。いつ仕事ができなくなるかわからない中、1年2年の年収だけで手当支給の判断をすると、将来的に困る。とても不安定。

②福祉施策について(28 件)

- 症状の急な悪化を懸念している。少なくとも現施策を維持していただきたい。
- 親が介護（サポート）できなくなった時や、親なき後の生活が一人では全くできない為、福祉による支援がとても大切で必要不可欠である。
- 区役所の老朽化。トイレもせまく、福祉課まで行くのも少々大変で、手続きや相談も、区役所、ウエルピアかつしかとまわされ、1拠点にまとめて相談・手続きが可能になることを望む。
- 障害の重い人の施策が少ないように思う。例えば、「パラシょうぶ」は知的障害の方しか（障害が軽い身体障害も含んでいるが）利用できない。国、都、区からの支援で作られているが、重い障害・医療の必要な方は利用できない。バランスが取れる支援をお願いしたい。
- 保護者の立場から要望がある。就学後の最も必要な支援は通学に係る部分です。特別支援学校まで親が送迎しているが、親が病気・ケガ・仕事などの場合は学校に通えなくなってしまう。移動支援事業の内容に通学介助も含めていただきたい。

③感謝(25 件)

- 区の福祉課には必要な事柄を手際良く手配していただいている。
- 各申請時に、区役所に行くが、職員の皆様の親切、丁寧な対応に感謝している。

④バリアフリーについて(14 件)

- 歩道においてある自転車が視覚障害者にとっては歩きにくい原因の一つである。
- 区営住宅でネットの光回線が引けないのは、ネットで情報を得ようとする視覚障害者には、重大なことを見落とす場合も出てくると思う。安定した通信環境ができることを望む。
- 一般道路の不整備。傾きが多くバリアフリーではない。車いすにての運行不可が多い。

- 歩道の端が傾斜しているため転びそうになり、何回か転んでいる。歩道を広く平らな部分を多くしてほしい。

⑤相談窓口や相談の支援について(12件)

- 障害者家族、介護者家族の相談窓口を増やしてほしい。
- 日本語が下手なので、中国語か英語のスタッフに協力してもらいたい。
- 自分たちみたいに障害のある人間で、何かあった時すぐ連絡できるようにしてほしい。
- 休日にも相談できるようにしていただきたい。

⑥情報発信について(11件)

- 外国人向け資料の充実など。
- サービスや情報に触れる機会を増やしてほしい。
- 区の福祉施設等について、区民が理解できていない等、今回の調査でわかった。区の広報等で機会ある毎に区民に福祉施策について、アピールしたら良いと思う。
- 障害児が受けられるサービスや就学等についての情報がまとめて見られるポータルサイトのようなものがあると良いと思う。

⑦施設・設備・サービスについて(12件)

- デイサービスの利用料をもっと安くしてほしい。
- 訪問リハビリを手厚くしてほしい。回数を制限され、体を動かす時間が減ってしまった。
- 家族がいなくなった将来の支援者確保に不安を抱えている。同じ障害で悩みを持つコミュニティの場が、病院以外で設けてもらうと有難い。
- 今は現役で働いているので施設を利用する事はないが、視力に障害があるので、将来はそのような視力に障害がある人の専用の施設があればいいと思う。

⑧入所施設について(10件)

- 区内に入所施設を新しく作ってほしい。土日も通所できる施設を作ってほしい。
- 若年層（50歳代）の介護施設・サービスがあるといいと思う。ある程度の認知機能はあっても入所・通所の必要があっても、生活内容が高齢者向けのため。
- サービス高齢者住宅をもっと安価で充実して欲しい。人工透析は特養に入所はできない。
- 現在要介護3度で自宅で生活しているが、4度、5度になった際、家族にさらなる迷惑がかけられないので、特養施設に入りたい。特養施設の増設と、入所条件の緩和をお願いしたい。

⑨各種手続きについて(9件)

- 障害関係の事務手続きを地区センターでできるようにしてほしい。区役所に行くのが困難。
- 未だに何かを申請するには紙で提出しなければならないことが多い。時間がかかりすぎではないか。全てを電子化するために何かの制度なり、ルールを捨てる施策を行ってほしい。

- 難病の手続きなど、治る見込みがなく悪化進行するのみで受けているのに、1年に1度手続きや書類が必要とされるのは本当に困難です。遠くの病院に書類だけ取りに行ったり、金銭的にも負担が大きい。

⑩区の窓口や区職員等について(9件)

- 足が不自由なのに「本人が来なければ」ということは困る。
- 区役所の福祉窓口での対応が冷たく感じられた。行きづらい。
- 公務員なので異動は仕方ないことですが、担当が代わるたびにまた同じような話をするのか…とってしまう。

⑪防災や災害時の対応について(9件)

- 災害時の避難場所を知りたい。
- 警報が聞きとれないので、聴覚障害者に災害時の備えとして、警報装置を備えてほしい。
- 非常用蓄電池購入の補助を希望。災害時、車いすでの避難よりも自宅待機予定なので電力確保が重要。

⑫就労や就労支援について(5件)

- 障害者でも働ける職場を紹介してほしい。
- 就労訓練施設、職業訓練施設の情報を充実してほしい。またその情報を入手しやすくしていただければ助かる。

⑬レスパイト、一時預かりについて(4件)

- 医療的ケア児のための、緊急一時預かりの場所を設けていただきたい。
- 家族の急な用事などで介護ができない時に、契約以外の日でもデイサービスが利用できると助かる。
- 医療的ケアが必要でも、親が本当に心身大変な時は近くで宿泊できる所があると安心。急な親の病気でも、ヘルパーさんが来てくれる事はなく、親が苦しみながら介護するのが現状である。

⑭アンケートについて(2件)

- 調査の設問が多くて大変。もう少しわかりやすい言葉でお願いしたい。
- 区の福祉について何も知らない。今まで一度もお世話になっていない。この書類を読んで勉強になり、知った。

⑮その他(56件)

- 何か困った事があったら、区役所福祉課に相談に行く。
- 自転車で活動するので、車の駐車除外ステッカーのようなものがあると、すごく助かる。
- 老々介護になる家庭が多くなると思うので、何か対策を考えていただけたらと思う。
- 親がいつまでも面倒をみるということにはできない。その時にどうしたら良いか常に考えている。不安しかない。

